

授業科目名	心 理 学	担当教員	北 川 公 路
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	心理学をこれから学ぼうと考えている人のなかには先入観をもっている人が多いと思われる。それはマスコミなどで取りあげられることの多い深層心理やカウンセリングの問題である。そのため心理学ではそれだけを扱うものであるという誤解が生まれやすい。臨床心理の問題も、心理学の中で重要な問題領域であるが、心理学が扱う問題は、それだけではないということを知り、心理学全般をおさえつつ、医療人にとって最低限必要な知識を身につけることを目的とする。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の主たる目的は人間の行動予測と制御にあるといわれている。その行動の予測と制御を行うために必要な知識を習得すること。 人間の行動とは、日常の行動だけでなく、ひとの発言、態度や表情など目にみえる行動すべてを客観的対象として捉え、科学的、実証的な方法によってこころのメカニズムや原理、法則を明らかにする学問であることを学習すること。 医療職種固有の医療的介入と同様、心理学という専門領域がとる心理学的介入について学習すること。
関連科目	老年心理学 臨床心理学 発達心理学 カウンセリング
成績評価方法	定期試験・レポート課題・出席点の総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	医療と心理学	心理学とは何か 医療と心理学、心理学の関連領域	精神看護学 目標 2 B 精神分析モデル a)フロイトの発達論 b) 転移感情 c) 自我の防衛機制	
2	心理学の諸理論	心理学の起源、精神分析理論		
3	学習	行動理論、認知理論 条件づけ 認知学習		
4	記憶	短期記憶と長期記憶 記憶障害	精神看護学 1 精神の健康 B 精神の機能と障害 g) 記憶と記憶障害	
5	感覚と知覚	五感のはたらき	人体の構造と機能 6 感覚と認識 A 視覚 B 聴覚と平衡覚 C 臭覚と味覚 D 皮膚感覚	
6	情動	情動 感情の機能	精神看護学 1 精神の健康 B 精神の機能と障害 e) 感情と感情障害	
7	動機づけ	動機づけ 動機づけの種類	看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 1 人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求 b) 社会的欲求	
8	社会心理学	社会的認知 人間関係		
9	ストレス	ストレスとは何か ストレスの心理生物学的影響	成人看護学 目標 1 2 成人に特有な健康問題の特徴	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	パーソナリティと自己理解	パーソナリティの諸理論 パーソナリティの形成 性格検査	C生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応 b) 生活ストレスと健康障害 目標2 1成人の特性や能力に応じたアプローチ B独自の信念や行動パターンを持つ存在 b) ストレスコーピング	
11	知能	知能、知能検査 知能の発達と障害	精看一目2 3精神科治療と看護 B臨床検査 d) 人格検査 精看一目2-3-B b) 知能検査	
12 13	こころの発達	発達諸理論 親子関係の発達、生涯発達心理学	老年看護学 目標2 4 障害・疾病をもつ高齢者への看護 G老人性痴呆・精神障害 a) 痴呆の種類と評価方法	
14 15	臨床心理学と心理療法	臨床心理学 心理療法 カウンセリング	2人間の成長と発達 B新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 精看一目標1 A精神の構造 a) 意識・前意識・無意識 b) イド・自我・超自我	

教科書	「シリーズ医療の行動科学 医療行動科学のための ミニマム・サイコロジー」 山田富美雄 (北大路書房)
参考書	講義時に案内

授業科目名	教 育 学	担当教員	横 井 利 男
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護や医療は、ある面では教育的でなければならない。そういった意味で本学学生は皆、教育する立場になるという意識が必要である。 人格を形成し、環境に適応し、環境を改善して自分や他者がよりよく生活できるようにするための学習という活動と、それに対する価値志向的働きかけである教育についての基本的事項を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論）を理解し、教育の目的等に沿って広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができる。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができる。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング 看護学 小児看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	教育	青少年の問題行動 原因：個の資質・家庭・学校・社会・法律		
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」		
3	学と習 (動機付け)	学ぶことの面白さ、 「覚える」と「分かる」 動機づけ(外的・内的)		
4				
5	学校教育	オオカミに育てられたアマラとカマラ		
6	学校教育の効果 教育内容	事例研究 1 量の教育から質の教育へ 知識から学び方へ 教育課程		
7	教育制度	現行の教育制度 教育制度の変遷		
8	ゆれる教育改革	「生きる力」と「問題解決の能力」 総合的な学習の時間		
9	人権の教育	模擬授業：「総合的な学習の時間：人権の教育」		
10	心の教育 道徳教育	宗教的心情の教育 道徳教育と宗教教育		
11	教育関係法制度	教育勅語～教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係		
12	発達と教育	教育の形態と学習者としてのヒトの「発達」 胎児期・乳児期・児童期・青年前		
13	学校不適応	学校不適応・いじめ・引きこもり 事例研究 2		
14	特別支援教育	ノーマライゼーション		
15	定期試験			

教 科 書	プリントによる
参 考 書	なし

授業科目名	生命科学	担当教員	澤田 只夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	パワーポイント/ビデオ、適時配布するプリント資料
科目の目的	ヒトを含む生物の生命現象を、人間が多様な生物と釣り合いながら、共生していくために広い視野に立ち、科学的、論理的思考力を育て、自由で主体的な判断と行動ができるように、また、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解していくことができるように、科学的思考の基盤や人間生活へのかかわりを学ぶ。そして、これから学んでいく多くの看護学・理学療法学専門科目の基盤となるよう、医療の対象である「人間」をより深く理解することをねらいとする。最新の情報を交えながら、生命に対する感動を共有したい。
学習到達目標	人間も生物の1種であり、その生命維持のしくみを他の生物と比較しながら、「人間」とその環境とのかかわりを深く理解し、他の生物とどれくらい共通点があり、どんな関わりをもって暮らしているのかを理解できるようになることである。
関連科目	解剖学 生理学 生化学 栄養学 微生物学
成績評価方法	中間・学期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)などにより評価

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命の起源	生命誕生の準備(化学進化) 原始生命の誕生 生命を支える分子		
2	生命の単位	細胞の構造と機能		
3		生体の構造と機能		
4				
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸		
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成		
7	生命をつなぐ遺伝情報	メンデルの法則		
8		遺伝子の本体 DNAの働き ヒトの遺伝 遺伝と環境		
9		* <u>Midterm Exam</u> *		
10	発生・分化	受精		
11		発生過程		
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ		
13		性の分化とホルモン		
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化		
15	生物と地球環境	ヒトと地球環境 環境汚染化学物質 環境保全 * <u>Final Exam</u> *		

教科書	「人の生命科学」渡辺強三、佐々木史江、堀口 毅 著、(医歯薬出版株式会社)
参考書	「生命の意味」桑村哲生 著(裳華房)

授業科目名	生命倫理	担当教員	村上隆夫
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握し、実践の場面での適切な行為を可能にする指針を得るとともに、さらにこれらの倫理的な諸問題の背景となっている哲学的・宗教的なことについて基礎的な理解を得るようすることを目的とする。
学習到達目標	1、現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2、実践の場面で倫理的な諸問題に関して適切に行う指針を獲得する。 3、西欧の医学・医療における哲学的・宗教的な背景について概観を持つ。
関連科目	看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 生命科学 医療民俗学 法学
成績評価方法	定期試験に出席率等の平常点を加算する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
1	生命倫理導入	生命倫理学の形成の歴史的背景	必修問題、看護の倫理 A, 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A, 緩和ケア d) 悲嘆のケア 基礎看護学 目標 1 1、看護の基本となる概念 B, 看護の対象としての人間 a) 人間のとらえ方 b) 人間と環境 4、看護の倫理 A, 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント 必修問題 1、人間の特性 B, 患者の特性 a) QOL 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A, 緩和ケア c) QOL の保証 1、母性看護の概念 B, 母性看護と理論 a) 妊産褥婦・退治および 新生児の権利と擁護 b) 就労と母性 5、終末期の看護 A, 緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) の保証 6、高齢者の終末期の看護 A, 終末期にある高齢者の看護 a) 高齢者の死のとらえ方 b) 死の迎え方の意向		
2	生命と身体(1) 生命と身体(2)	伝統的宗教における生命と身体 古代哲学における生命と身体			
3	生命と身体(3)	近代哲学における生命と身体			
4	死の問題(1)	伝統的な社会における死			
5	死の問題(2)	近代社会における死			
6	人間の身体	疎外される身体と加工される身体			
7	身体と所有	近代的所有権と身体			
8	人権と医療(1)	脳死と臓器移植			
9	人権と医療(2)	インフォームドコンセント			
10	誕生と倫理	妊娠中絶と新生児殺し			
11	死と倫理	終末期医療と安楽死・尊厳死			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	生殖と倫理	生殖技術と倫理	ビングウイル と対応 c) 看取りに対する合意の形成 d) 死の受容への看護 g) 苦痛の緩和と安楽への看護 h) 臨死期の対応 i) 家族の参加と家族への看護 1、母性看護の概念 B, 母性看護と倫理 a) 妊産褥婦・退治および新生児の権利と擁護 b) 自己決定の尊重 c) プライバシーの保護	
13	医療関係倫理	医療関係者－患者間の倫理	1、看護の基本となる概念 E, 看護倫理 a) 患者の権利擁護 b) 患者のプライバシー保護 c) 看護師の倫理規定 d) 職業倫理	
14	医療と正義	医療資源の配分の倫理	1、社会保障の理念 A, 日本の保健医療福祉活動の基本方向 c) 倫理	
15	動物の生存権	生命倫理と環境倫理		

教科書	プリントによる。
参考書	講義の展開のなかで適宜指示する。

授業科目名	スポーツ科学	担当教員	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	オリエンテーションは、学内で 2 コマ行う。スポーツ科学 は、高山村北毛青年の家において、スポーツ科学 は、AMF 高崎パークレーンにてそれぞれ行う予定である。
科目の目的	「生活習慣病」の原因は、偏った食生活と運動不足によるものとされている。人間の多くの作業や動作を、機械が代行する現代社会では、運動不足は、必然の結果と言えよう。そこで、人間と運動との関係を今一度考え、現実に即した理想的なスポーツスタイルとは何かについて学んでみる。
学習到達目標	心身の健康づくりのため、ぐんま県民マラソンの 4Km のジョギングあるいはウォーキング参加を目標にして、そのためのコンディションづくりを行う。 レジャースポーツとして、国民的支持を受けている「ボウリング」の歴史は、紀元前にまで遡る。ボウリングは、スポーツとしていったいどれほどの健康的な効果があるのだろうか。都市型における生活スタイルに即した理想的なスポーツスタイルとしてのボウリングの魅力を明らかにしてみよう。
関連科目	スポーツ科学実習 生理学 解剖学
成績評価方法	出席 (15 点) および試験 (85 点) にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準			
			看護師	保健師		
1	オリエンテーション	教室 (講義)				
2	スポーツ科学	アウトドアスポーツ「北毛青年の家 (集中講義)」	必修問題 2 健康と生活 A 生活習慣 c) 運動			
3		アウトドアスポーツ「北毛青年の家 (集中講義)」 内容「未定」				
4		オリエンテーション 教室 (講義)」				
5	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
6	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
7	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
8	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
9	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
10	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
11	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
12	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
13	ボウリング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
14	ウォーキング	AMF 高崎パークレーン (実技)				
15	試験					

教科書	ボウリングのレッスン料 (¥5000) ・バス代 (¥750) として実費を負担します。 テキスト「ボウリングと健康の科学」も含まれます。
参考書	特にありません。

授業科目名	スポーツ科学実習	担当教員	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	講義としてのオリエンテーションは、学内で2コマ行う。集中講義としてのスポーツ科学実習は、「ぐんま県民マラソン大会」にて、同様に、スポーツ科学実習は、新潟県湯沢町の苗場(Naeba)スキー場にてそれぞれ行う予定である。
科目の目的	スポーツおよび は、自然とふれあうさまざまな場面における健康管理とその予防、傷害の管理予防およびコンディショニングを適切に処理および指導できる力量形成を養うことを目的とする。
学習到達目標	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのため、ぐんま県民マラソンの4kmのジョギング参加を目標にして、そのためのコンディショニングを行う。スノースポーツ(スキー・スノーボード)を愛する人々が共有する「自然とのふれあい」「人とのふれあい」を通じてそれぞれの体力、技術およびスタイルに応じた楽しみ方を体験する。
関連科目	生理学 スポーツ科学 解剖学
成績評価方法	スポーツ実習 および の出席(100点)にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	オリエンテーション	スポーツ実習 オリエンテーション 「ぐんま県民マラソン大会」参加 4Km・10Km・ハーフ(20Km)の3種目のうち、1種目を選択し、そのための練習を行う。 個人トレーニング スポーツ実習 オリエンテーション 「スキー・スノーボード」合宿を予定(初心者レッスン含む) 1泊2日予定		
2	スポーツ実習			
3	例年11/3実施			
4				
5				
6				
7				
8	スポーツ実習			
9	1泊2日予定			
10				
11	2月上旬定期試験終了後実施予定			
12				
13				
14				
15				

教科書	「ぐんま県民マラソン」参加費(¥2000)「スキー・スノーボード」合宿は、交通費、宿泊、リフト代、用具等すべて自己負担(¥20000前後)となります(日程および詳細は、履修者決定後別途連絡します)。
参考書	

授業科目名	総合英語	担当教員	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	前期は基本的なものを、後期はやや難しめのテキストに沿って進める。
科目の目的	将来の高度な専門分野の英語に取り組めるような2つの基礎作りを目的とする。 ・今までに習った基礎事項を確認しながら、4つの技能(読む、聞く、話す、書く)をまんべんなく練習し、総合的な英語力をつける。 ・専門分野に関する基本的な英語の語彙力をつける。
学習到達目標	1年を通じて4つの技能をバランスよく習得することは言うまでもないが、履修者各人の苦手な技能に積極的にチャレンジして improve してほしい。 1年を通じて専門分野関連の基本的単語をおぼえること。 後期には4技能を磨きながら、人間の生命、生活、健康についての見方を広げてほしい。
関連科目	
成績評価方法	出席状況・授業への参加度・平常試験・期末試験(前期、後期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Introduction 前期テキスト	授業の説明		
2	Chapter 1	「看護師とは」を読んで practice する。		
3	Chapter 2	「看護の歴史」を読んで practice する。		
4	Chapter 3	「患者と看護師の関係」を読んで practice する。		
5	Review	Chapter 1 ~ 3 の復習		
6	Chapter 4	「患者とのコミュニケーション」を読んで practice する。		
7	Chapter 5	「患者との異文化コミュニケーション」を読んで practice する。		
8	Chapter 6	「医師と看護師の関係」を読んで practice する。		
9	Review	Chapter 4 ~ 6 の復習		
10	Chapter 7	「関連のある職種の人達」を読んで practice する。		
11	Chapter 8	「看護師と病院」を読んで practice する。		
12	Chapter 9	「地域における看護師」を読んで practice する。		
13	Chapter 10	「未来の看護」を読んで practice する。		
14	Review	Chapter 7 ~ 10 の復習		
15	Examination 後期テキスト	前期末試験		
16	Chapter 1	「スポーツで健康な暮らし」を読んで practice する。		
17	Chapter 2	「栄養は健康の鍵」を読んで practice する。		
18	Chapter 3	「現代はストレス時代」を読んで practice する。		
19	Chapter 4	「エイズ撲滅」を読んで practice する。		
20	Chapter 5	「間接喫煙は有害」を読んで practice する。		
21	Chapter 6	「親になるのは怖い」を読んで practice する。		
22	Chapter 7	「病気の子供達」を読んで practice する。		
23	Chapter 8	「在宅看護」を読んで practice する。		
24	Chapter 11	「病院の発達」を読んで practice する。		
25	Chapter 12	「近代看護の創設者、ナイチンゲール」を読んで practice する。		
26	Chapter 13	「看護師は患者の代弁者」を読んで practice する。		
27	Chapter 14	「老人ホームの老人達」を読んで practice する。		
28	Chapter 15	「コミュニケーションは良い人間関係から」を読んで practice する。		
29	Chapter 18	「リハビリで健康を」を読んで practice する。		
30	Examination	後期末試験		

教科書	前期 「English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語」 Marilyn W. Edmunds 他 著(南雲堂) 後期 「Life and Health Care 総合英語:健康と医療」 渡邊容子 他 著(三修社)
参考書	英和辞書

授業科目名	英語表現	担当教員	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って、ロールプレイなどへの履修者の積極的参加と共に進める。
科目の目的	将来、様々な医療の現場で遭遇するであろう、英語を使ってコミュニケーションをとらなければならない場面に備えて、専門分野の現場での基礎的な英語表現を身につけることを目的とする。
学習到達目標	医療の現場に必要な基礎的な英語の語彙、表現を覚えること。 覚えた語彙、表現がスムーズに口から出てくること。
関連科目	
成績評価方法	出席状況・授業への参加度・平常試験・期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明		
2	(Basic)の Unit 1	自己紹介の仕方		
3	(Unit 1), Unit 2	各自の自己紹介、あいさつ		
4	Unit 3, 4	人を紹介する、場所や方向を教える		
5	Unit 5, 6	患者の様子を聞く、診察や治療に必要な表現		
6	Review	復習		
7	Unit 7, 8	相手に確認(1)(2)		
8	Unit 9, 10	相手に確認(3) 行為を促す言葉		
9	Review	復習		
10	Unit 11, 12	指示、依頼の表現(1)(2)		
11	Unit 13, 14	指示、依頼の表現(3) 食べ物に関する表現		
12	Unit 15, 16	薬に関する表現、患者の要望に答える表現		
13	Review	復習		
14	Unit 17, 18	患者の質問に答える表現、窓口での言い方(1)		
15	Unit 19, 20	窓口での言い方(2)(3)		
16	Review	復習		
17	(20 Health)の Unit 1, 2	電話予約、受診手続きの表現		
18	Unit 3, 4	診察の順番待ち、再診の表現		
19	Unit 5, 6	入院の指示、手続きの表現		
20	Unit 7, 8	患者に質問、お風呂の許可の表現		
21	Unit 9, 10	薬の指示、検査の指示の表現		
22	Review	復習		
23	Unit 11, 12	内科、外科に関する表現		
24	Unit 13, 14	小児科、歯科に関する表現		
25	Review	復習		
26	Unit 15, 16	眼科、耳鼻咽喉科に関する表現		
27	Unit 17, 18	産婦人科、整形外科に関する表現		
28	Unit 19, 20	皮膚科、泌尿器科に関する表現		
29	Review	復習		
30	Examination	期末試験		

教科書	「Basic English for Medical Care メディカル英語の基礎」 古閑博美 著 (弓プレス) 「20 Health-care Dialogs」 古閑博美、垂石幸与 著(弓プレス)
参考書	英和辞書

授業科目名	音楽学	担当教員	峰岸小織
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	音楽療法の普及などにより、音楽の治療効果は科学的にも証明されつつあるが、音楽は病気の治療のみならず、健康な人の精神にも大きな影響を与える。この講義では、音楽作品を歴史的背景、作曲家のエピソード等、多くの観点から学び、作品を深く理解し、身近に親しむための関心を引き出していく。それにより、生涯にわたり豊かな感受性、知性、教養を磨き、社会に貢献してゆきたいという熱意を導く。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は得意・不得意ではなく、いつも人と共にあり、心の表現手段の一つであり、又、人と人とのコミュニケーションの道具にもなることを認識する。 ・音楽に感動する喜びを体験する。 ・現代人の生活に氾濫している種々雑多な音に注意を向け、健全な音楽観を持ち、職場や家庭において進んでその音楽環境を整え得る感覚を持つ。
関連科目	教養科目 心理学 老年心理学 教育学 生活学 家族学 地域社会学 国際関係論 専門基礎科目 発達心理学 健康管理論 カウンセリング 国際医療協力 専門科目 看護学概論 成人老年看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 地域看護学概論
成績評価方法	レポート、授業後の提出物(感想文)、授業に取り組む姿勢等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	音楽の起源	原始社会の中で音楽はどのように生まれたのか。 文明の発達と共に音楽はどのように発達していったか。 楽譜(記譜法)の発達 等 音楽を構成する三要素(リズム、メロディ、ハーモニー) 様々な楽譜の読み方 等 現代社会における音楽療法 心の病気と音楽療法 高齢者と音楽療法 子供と音楽療法 健康な生活と音楽、現代人を取り巻く音楽環境 医療施設での音楽環境 バロック音楽からオペラまで、音楽療法で使われる音楽を中心に学ぶ。 モーツァルト、シューベルト他オーストリアの作曲家達の音楽 バッハ、そしてベートーヴェンの人と音楽 近代フランス音楽の響き ロシア民謡、バレエ音楽 日本の伝統音楽、民謡、愛唱歌などを通して、又、他の国々との比較において、自分の国の文化を再認識する。 アメリカ、スペイン、ハンガリー、ブルガリア、チェコ、ポーランド、イギリス等の音楽		
2	音楽の発達			
3	音楽の基礎知識			
4	音楽療法とは何か			
5	音楽療法の実際1			
6	音楽療法の実際2			
7	音楽療法の実際3			
8	音楽療法の実際4			
9	イタリアの音楽			
10	オーストリアの音楽			
11	ドイツの音楽			
12	フランスの音楽			
13	ロシアの音楽			
14	日本の音楽、アジアの音楽			
15	その他の国々の音楽			

教科書	特に使用しません。
参考書	講義の中で必要に応じて推薦します。

授業科目名	日本の近代文学	担当教員	杉本優
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	近代(明治以降)の小説、詩歌などから対象を選び、1回ないし2回程度で完結する進度でいろいろな作品を読んでいく。文学のさまざまな表現様態にふれると同時に、読む過程での問題意識の多様な展開をねらう。
学習到達目標	1. 時代、ジャンル、あるいは流派の違いによる読みのコードの相違を感知する。 2. 方法的な読みの意識化、深化をめざす。 3. 文学表現がはらむ人間探究の豊かな知を習得する。
関連科目	関連すると思われる教養科目：心理学 教育学 生命倫理 総合英語 医療民俗学 性別の社会科学 環境論
成績評価方法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	訳詩の方法・訳詩の魅力	コクトーの2行詩をめぐる3つの訳詩を比較検討する。		
2	まど・みちお「ぞうさん」	阪田寛夫の「遠近法」を手がかりに、まどの詩表現を考える。		
3	啄木の短歌	晩年の啄木の評論や短歌作品を通して、その短歌観を理解する。		
4	啄木の短歌	(承前)		
5	(X)	題目未定、小レポートを実施する可能性もある。		
6	坂本遼を中心に	地方語で書かれた詩を読む。		
7	堀辰雄と中野重治	堀辰雄の「幼年時代」によって、彼と中野の幼年時代の意味を考える。		
8	丸山薫の世界	『物象詩集』までの彼の詩の世界を概観する。		
9	丸山薫の世界	(承前)		
10	「薔薇二曲」	北原白秋の『白金之独楽』への道程を背景に、詩表現を考える。		
11	「薔薇二曲」	(承前)		
12	詩集『音楽』を読む	詩のアラベスク、アブストラクト、アヴァンギャルド。		
13	詩集『音楽』を読む	(承前)		
14	まとめ	授業の総括(進度調整)		
15	試験			

教科書	テキストは配布プリントを原則とする。
参考書	「近代文学年表」年表の会(双文社出版) その他は、授業中に指示する。

授業科目名	生活学	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義と演習
科目の目的	人は社会生活と私生活の両方の世界を生きている。社会生活の領域のありようは私生活のありようにより大きな影響を及ぼしている。この科目では、社会生活の領域との関係を念頭におきつつ私生活の領域に軸足を置き、本当に豊かな生活とは何かを考える
学習到達目標	1.私生活のありかたを社会生活のありかたと関連づけ、総合的にとらえられるようになる 2.生活の質(QOL)について十分な認識・知識を獲得する 3.自身の将来の生活について具体的に考えられるようになる
関連科目	【関連し合う教養科目】 - 生活学 性別の社会科学 地域社会学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】 - 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】 - 地域看護学概論 地域看護活動論 ・ ・ ・ 在宅看護論 看護学概論 精神地域看護学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生活をとらえる枠組み	生活 QOL 生活を捉える枠組み	科目全体を通じて 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯) b) 住居、 c) 家族周期 B. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化、b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化、 d) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育、c) 保健・福祉、d) 生殖、 e) 慰安・交流 1. 生活基盤 C. 生活単位 a) 家族(世帯)	科目全体を通じて 【地域看護学】 ・地域看護学の成立基盤 C 基本概念とその活用 a) 健康、生活
2	行為・行動の理解	生活主体と生活行動 生活主体の生活単位		
3	生活と社会関係(1)	社会関係 社会関係の変化に影響する諸要因 個人の一生と社会関係		
4	生活と社会関係(2)	個人と地域社会との関わり 危機的できごとと家族・地域社会		
5	生活と時間(1)	生活時間とは何か ライフステージ別生活時間		
6	生活と時間(2)	生活時間調査 活動の場所と家族共有時間		
7	生活と職業労働・家事労働	職業労働 家事労働		
8	生活と空間	住空間 ライフステージと住空間 ライフスタイルと住空間		
9	生活と経済(1)	間 居住水準 住環境		
10	生活と経済(2)	国民経済と生活経済		
11	生活問題と社会政策(1)	家庭経済		
12	生活問題と社会政策(2)	生活問題 生活問題の現代的特徴		
13	生活は豊かになったのか	生活問題への対応 生活保障の諸制度		
14	生活を設計する	豊かな生活とは 豊かさ QOL の構成要素 社会の豊かさの測定 豊かな生活の保障		
15	定期試験	ライフコースの選択 生活を設計する		

教科書	使用しない。プリントによる(ファイルを用意のこと)
参考書	「現代社会と生活」長津美代子ほか(建帛社)

授業科目名	家族学	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識技術の形成を基礎づけることを目的とする。
学習到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能、家族周期、家族境界など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	関連し合う教養科目 - 生活学 性別の社会科学 地域社会学 心理学 老年心理学 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 発達心理学 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 - 地域看護学概論 地域看護活動論 ・ ・ ・ 在宅看護論 看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 小児看護学 ・ ・ ・ 小児看護学特論 母子看護学特論 母性看護学特論 精神看護学概論 精神地域看護学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 D. 生活単位 a) 家族(世帯) b) 住居、 c) 家族周期 E. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル B. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化、 b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化、 d) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育、c) 保健・福祉、 d) 慰安・交流 1. 生活基盤 F. 生活単位 a) 家族(世帯) 【必修問題】 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患	【地域看護学】 目標1地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学】 目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 【地域看護学】 目標2地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う 3. 社会環境の変化と健康課題
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース		
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク - 夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期		
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから		
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族		
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ、		
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻		
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見		
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続		
10	家族をめぐる制度(4)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴 - 氏と墓 “夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案		
11	家族機能の破綻とその解決援助(1)	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス		
12	家族機能の破綻とその解決援助(2)	児童虐待への対応 - 予防、発見、危機介入(初期対応)、問題解決のための長期的対応		
13	家族機能の破綻とその解決援助(3)	児童虐待への対応の鍵概念 - 自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法		
14	家族機能の破綻とその解決援助(4)	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要 総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防止法 加害者対応 高齢者虐待		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	定期試験	筆記試験	<p>者の権利 c) 自己決定権 d) ノーマライゼーション</p> <p>【必修問題】 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う</p> <p>3 患者と家族 A 家族の機能 a) 家族関係</p> <p>【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う</p> <p>1 . 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2 . ライフスタイル C. ライフスタイルの変化 b) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化</p> <p>3 . 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B . 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク</p>	<p>C健康に影響する生活環境要因 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態</p> <p>【地域看護学】 3 . 家庭訪問 A 家族保健指導 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 6 . 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 b) 就労女性</p> <p>【地域看護学】 2 . 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族</p> <p>【地域看護学】 6 . 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9 . 精神保健指導 C社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8 . 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導</p>

教科書	プリントによる。
参考書	「21世紀家族へ【新版】」落合恵美子（有斐閣） 「系統看護学講座 別巻 15 家族論・家族関係論」（医学書院）

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	担 当 教 員	伊 藤 亜 都 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	我々の生活にとって地域社会とのかかわりは不可欠である。地域社会に関する基本的な知識を学びながら、現代社会で起こっている環境、家族、教育、福祉、防災などの問題について地域社会が果たせる役割を理解することを目的とする。講義を通して、地域社会において現在起こっている社会問題、自分の身近な地域などに対して関心をもつこと、理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 - 老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 - 精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護活動論 ・ ・ 災害看護
成 績 評 価 方 法	講義時間内に、何度か小レポートを行う。また、それぞれが地域社会について考えを持つことを期待しているため、グループごとに意見を出し合うワークショップを行う場合もある。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティの基本的知識	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。 1. 生活基盤 C. 生活の場と健康 a) 都市 b) 農村・漁村 c) へき地 D. 労働と健康 a) 仕事内容 b) 労働時間 c) 仕事と余暇 3. 人間の集団としてのほたらき B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク C. 職場における人間関係 a) 上司との関係 b) 組織のなかでの役割 c) 同僚との関係	
2	地域社会学の概論(2)	戦後日本における「地域コミュニティ」の歴史		
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
6	自分の地域について考える(1)	阪神大震災の映画から学ぶ「住む」ことの意味		
7	自分の地域について考える(2)	阪神大震災の映画から学ぶ「住む」ことの意味		
8	自分の地域について考える(3)	人間の生活にとって地域社会とは?(ワークショップ形式を予定)		
9	自分の地域について考える(4)	人間の生活にとって地域社会とは?(ワークショップ形式を予定)		
10	地域社会で活動する担い手(1)	住民主体論: 地域社会で活動する人々や組織について		
11	地域社会で活動する担い手(2)	地域社会における代表的な組織としての自治会		
12	地域社会で活動する担い手(3)	地域社会で活動するボランティア・アソシエーション		
13	地域社会で活動する担い手(4)	地域社会における人々の個人的なつきあいであるパーソナル・ネットワークについて		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	地域コミュニティの担い手(5)	ボランティア・NPOの可能性について		
15	定期試験	筆記試験		

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「コミュニティ論」倉沢進 ((財)放送大学教育振興会) 1998 「町内会と地域集団」 倉沢・秋元編 (ミネルヴァ書房) 1990

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	担 当 教 員	宮 地 由 高
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	少子高齢化が進み、住民ニーズが多様化した 21 世紀はボランティア・NPO の時代といわれている。ボランティア活動や NPO についての正しい理解と知識を習得させ、地域社会の一員としての自覚とボランティア活動への参加を促すことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1 . ボランティア・NPO についての基本的な概念を習得する。 2 . 障害者やノーマライゼーションについての基本的な概念を習得する。 3 . 新たなボランティア・NPO の動きを理解し、今後必要と思われる活動や事業を具体的に考えられるようになる。 4 . ボランティア活動を実践する。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、平常点を加味し、実際にボランティア活動を実践したかどうかによって評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ボランティア実践論	講師の 40 年のボランティア体験を講義する		
2	NPO 実践論	講師の 10 年の NPO 運営の実際を講義する		
3	ノーマライゼーション実践論	ノーマライゼーションの実践事例を紹介		
4	障害者実践論	重度障害者を講師に招いて講義をする		
5	NPO の誕生 (1)	ボランティアの二つの潮流 ボランティアと NPO		
6	NPO の誕生 (2)	非営利セクターを考える 日本型 NPO		
7	福祉とボランティアの思想 (1)	福祉の原点 福祉と権利 福祉思想のボランティアへの浸透		
8	福祉とボランティアの思想 (2)	ボランティアの自立 ボランティア・民主主義・福祉市民活動		
9	NPO のマネージメント (1)	なぜマネージメントが必要か 実践的マネージメント論		
10	NPO のマネージメント (2)	NPO の組織 運営、資金調達		
11	NPO のマネージメント (3)	介護保険と NPO のマネージメント NPO のネットワーク		
12	災害ボランティア実践論	阪神淡路大震災 日本海重油回収 新潟三条水害 新潟県中越地震		
13	NPO 実践事例 (1)	福祉系 NPO 法人運営事例		
14	NPO 実践事例 (2)	環境系 NPO 法人実践事例		
15	定期試験	筆記試験及びボランティア活動体験レポート提出		

教 科 書	「ボランティアの時代」 田中尚輝 (岩波書店)
参 考 書	

授業科目名	医療民俗学	担当教員	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	後期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生や死に際して行われる儀礼や慣行は、日本人の伝統的生命観に基づいたものであり、これに対する十分な知識と理解がこれからの新しい医療文化のあり方を考える上で重要となる。本授業では日本人の伝統的生命観の概要を学ぶことを目的とする。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康・清潔の歴史と文化を学ぶ。 (3) 死の民俗に関する儀礼と慣行を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理・家族学
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5 6	(1) 誕生民俗と生命観	丙午俗信と出産行動 胎児の生命(産死の身二つ慣行の分析) 産着と魔除け(赤子を守るマーク) 名付けの諸相(悪名と仮り名の習俗) 双子観の変容 いのちの保護(産婆の技術と呪術)		
7 8 9 10	(2) 病気・健康と医療	病気とまじない(呪術の現在性) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と伝統的習俗の関わり) 長寿と厄年(長寿銭と長寿観)		
11 12 13 14 15	(3) 死者儀礼と死後の世界	看取りと臨終(介護の問題と家族) 死の判定とタマヨビ あの世とこの世(死者儀礼と現代社会) 供養と慰霊(戦没者慰霊と弔い上げ習俗)		

教科書	「いのちの文化人類学」波平恵美子(新潮社) プリントも使用する。
参考書	「冠婚葬祭」宮田登(岩波新書)

授 業 科 目 名	法 学	担 当 教 員	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	「法」というと「難しいもの、面倒なもの、私たちに関係ないもの」といった印象を持っている人が多いのではないだろうか。でも、実は、「法」は身近なものであり、私たちを守ってくれるし、私たちが幸せになるために使えるものでもある。そこでこの科目では、基本的人権・平和・民主主義といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長すること、あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつけることを目標とする。
関 連 科 目	[他の教養科目で関連の深そうなもの] 経済学・国際関係論・性別の社会科学・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法	定期試験。レポートを課すこともある。 出席状況によっては、成績評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	序論	法とは何か、憲法とは何か		
2	人権	人身の自由（刑罰と人権）		
3	人権	表現の自由		
4	人権	信教の自由		
5	人権	教育と人権		
6	人権	家族と人権		
7	人権	平等		
8	民主主義	民主政治と独裁政治		
9	民主主義	国民主権と象徴天皇制		
10	平和	日本がした戦争		
11	平和	軍隊は必要か		
12	平和	戦争をするアメリカ		
13	平和	どのように平和を実現するか		
14	まとめ	法とは何か、憲法とは何か		
15	定期試験			

教 科 書	使用しない。
参 考 書	「新版 主権者はきみだ」森英樹（岩波書店 岩波ジュニア新書）

授業科目名	経済学	担当教員	武井昭
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	今日においては「お金」なしには生きていけない。「お金」を安定して稼ぐには、今日の「経済」の仕組みを正しく認識することが不可欠である。今後急速に進展する「少子・高齢社会」の中でこのことを実現することは容易ではないが、本講義では、「少子・高齢社会」の到来とこれまでの「経済」の関係を可能な限り体系的具体的に捉えることを通じて、フリーター・ニート、年金、医療、介護など今日直面する諸問題の克服の可能性を考査する。
学習到達目標	自分なりに理解したことをスタディしそれを文書で表現する能力
関連科目	
成績評価方法	レポート(400字詰め原稿用紙15枚以上)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	講義のねらい	今日の「経済」は「工業経済」がその価値の中心を形成し、その価値づけについては「市場」(マーケット)で行うということが中核をなしているために、「お金」での評価の比重が大きくなる。それにつれて、このこととこれ以外の社会的な事柄との関係において軋轢が生じ、社会経済問題となる。こうした視点から講義を展開する。		
2	経済と社会の関係			
3	工業経済と市場経済の統合			
4	経済発展と技術革新			
5	経済成長と社会保障			
6	高齢化社会のメカニズム			
7	少子・高齢社会の到来			
8	介護・福祉・健康と労働(女性の社会化・フリーター問題)			
9	看護・リハビリの社会経済学			

教科書	
参考書	

授業科目名	国際関係論	担当教員	藤本 凡子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	国際社会とは、対立の構造を抱えつつ相互に依存し共通する利益の追求を図ろうとする、「力」の交錯した社会である。ここでは、国家のみならず「信念」をもつ個人やその団体も行動主体となりうる。信念は、物事の本質を見極める力を持ち思考を重ねることをへてこそ揺るがないものとなるはずである。本講義では、「階層」をキーワードに、国際社会の構造、その中で機能する法や制度の成り立ち、そしてそれらの変革に関わる動きを、経済的・政治的観点から読み解いていく。国際協力に関心のある学生に対して、巨視的立場から世界の「力関係」を学び、自身の立場を考える機会を提供するものである。
学習到達目標	1. 勢力均衡から覇権獲得競争、東西対立、南北対立へという「国際社会の構造変動」について学ぶとともに、主権国家の成立期にさかのぼって「工業化と国家の関係」に注目することで、構造変動の本質を把握する。 2. 国際協力と国際機構の関係、そしてとくに国連の機能とその舞台において繰り広げられる加盟国の政治的・経済的な「力の交錯」状況を把握することで、国際協力の枠組みの理想と現実を理解する。 3. 近代以降の国際舞台の主演、「主権国家」の変貌の可能性を、欧州連合を例に探る。 4. 可変的な国際社会の構造、そこにうごめく力関係のなかであって、個人はどのような場面・立場で国際社会に参加できるのか、またはできないのか、個人的な意見を持てるようになる。
関連科目	関連し合う教養科目 法学 経済学 この科目が基礎となる専門基礎科目 国際医療協力
成績評価方法	定期試験に出席状況、レポート(1回実施)の点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	社会科学の研究 国際関係論史(1)	研究とは 情報の収集と取捨選択 大戦～1920年代の理想主義的アプローチ 例：国際法・国際機構論		
2	国際関係論史(2)	現実主義的アプローチから新たなアプローチへ 例： パワー・国益の重視 政治学の科学的研究 巨視的理論の構築		
3	国際関係と演劇 <舞台> 国際体系(1)	舞台・役者・演技・ドラマ 西欧国家体系の成立と拡大 主権国家		
4	国際体系(2)	主権国家と「工業化」 勢力均衡から覇権国家の登場へ・覇権の推移 「極」の対立～東西対立・南北対立		
5	<演技>目的実現 のために	演技力～国力とは 演技の道具～外交交渉・制裁・ 援助・交流 外交政策の決定過程		
6	<役者/ドラマ> 外交政策の特徴(1)	イギリス(覇権国から旧覇権国へ)・アメリカ(外部 から覇権国へ)の外交政策		
7	外交政策の特徴(2)	日本(外部から非覇権中心国へ)の外交政策		
8	南北の構造対立	経済援助の思惑 発展途上国の主体的要求		
9	<舞台/役者/ドラマ> 国際社会の組織化	国際機構はなぜ必要か 国際機構の中の平等・不平等 国家・国際機構・超国家の関係		
10	国際連合	安全保障の仕組み 憲章上の仕組み 実際の運用		
11		経済協力の仕組み 平和と経済協力 発展途上国と 国連・国連ファミリー		
12	欧州連合	欧州共同体の誕生 「超国家」への試練		
13		経済統合から政治統合へ 欧州連合の拡大		
14	レポート評価と討論	個人はいかなる場面・立場で国際社会に参加できるか		
15	試験	筆記試験		

教科書	プリントによる。
参考書	「国際政治経済学をめざして」川田侃(お茶の水書房)「ポスト覇権システムと日本の選択」猪口邦子筑摩書房 「国際機構論」最上敏樹(東京大学出版会) ほか適宜、指示

授業科目名	性別の社会科学	担当教員	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する。 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える。
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる。 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる。 3.2.のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる。 4.3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる。
関連科目	【関連する教養科目】家族学 生活学 法学
成績評価方法	講義を踏まえ、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	戦後日本社会と性別(1)	データに見る「現代日本社会と性別」	- 科目全体を通じて - 【社会保障制度と生活者の健康】 目標1人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1.生活基盤 G. 家庭生活の基本機能 a)生産・労働 2.ライフスタイル D. 家族の機能と役割 a)夫婦の役割機能の変化 b)家族内介護者の変化 c)育児と介護の社会化、 d)家事機能の変化 H. 生活単位 a)家族(世帯) 【必修問題】 【必修問題】 ・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3患者と家族 A 家族の機能 c) 家族関係 【社会保障制度と生活者の健康】 目標1人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2. ライフスタイル	- 科目全体を通じて - 【地域看護学】 目標1地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a)個人・家族 目標2地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う 3. 社会環境の変化と健康課題 C健康に影響する生活環境要因 b)生活構造 c)家族形態 d)労働形態 【地域看護学】 目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a)家族の発達段階と課題 b)家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価
2	戦後日本社会と性別(2)	データに見る「現代日本社会と性別」(続)		
3	戦後日本社会と性別(3)	「女性」「男性」をめぐる規範		
4	戦後日本社会と性別(4)	高度経済成長期における性別分業の形成 分業の3軸、第1の性別分業：有償労働と無償労働		
5	戦後日本社会と性別(5)	高度経済成長期における性別分業の形成 第1の性別分業：社会的労働と私的労働(続き)		
6	戦後日本社会と性別(6)	高度経済成長期における性別分業の形成 第2の性別分業：産業雇用労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)		
7	戦後日本社会と性別(7)	高度経済成長期以降の性別分業 第1・第2,2つの性別分業の関係		
8	戦後日本社会と性別(8)	第3の性別分業 男性:政治/女性:政治への非関与。その根としての「家」制度		
9	性別について公正な社会へ(1)	性別秩序はなぜ問題にされるようになったか、性別秩序を越えた社会		
10	性別について公正な社会へ(2)	社会的労働と私的労働のゆくえ、能力と努力と状況対応秩序の社会への途。国・地方自治体、市場、市民それぞれができること		
11	ケアと性別(1)	ケアとは、他者のケアを役割にすること、ケアの役割化に伴うリスク		
12	ケアと性別(2)	愛とケア、ケア観の成熟、ケアの脱役割化		
13	摂食障害と女性	「摂食障害と女性」を結ぶ2系統の社会的次元の説明 「摂食障害と女性」をケアと結ぶと		
14	女性に対する暴力	「女性に対する暴力」とは何か、「女性に対する暴力」の諸形態、撤廃の方途		
15		定期試験		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			E. ライフスタイルの変化 d) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3 .人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B .地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	

教科書	プリントによる(プリント保存用のファイルを用意すること)。
参考書	「女性のデータブック 第4版」井上輝子、江原由美子他編(有斐閣)2004 「男女共同参画白書 2004 年度版」内閣府(財務省印刷局)2004

授業科目名	環境論	担当教員	西 菌 大 実
対象学年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学習到達目標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 生活環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 4 循環型社会、持続可能社会への認識
関連科目	
成績評価方法	レポート（前期終了時実施予定）、定期試験（後期終了時実施予定）を重視する。出席状況、平常点を参考とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	【社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3．生活環境の保全 A．地球環境 a) 地球温暖化 b) オゾン層の破壊 c) 酸性雨 B．水・空気・土壌 a) 水の安全性 b) 大気汚染 c) ダイオキシン C．食品管理および家庭用品 a) 食品安全確保対策 b) 食品衛生管理制度 c) 家庭用品の安全対策 D．ごみ・廃棄物 a) 一般廃棄物と産業廃棄物 b) 市町村の責任 c) 生活廃水処理 E．住環境 a) バリアフリー b) シックハウス症候群	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち		
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源		
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷		
5	典型七公害()	水質汚濁、土壌汚染		
6	典型七公害()	大気汚染、悪臭		
7	典型七公害()	騒音、震動、地盤沈下		
8	四大公害	水俣病、イタイタイ病		
9	生活環境問題まとめ	公害対策の歴史、法制度		
10	オゾン層破壊()	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し		
11	オゾン層破壊()	対策、ウィーン条約モントリオール議定書		
12	地球温暖化()	温室効果ガス		
13	地球温暖化()	気候変動の状況と見通し		
14	地球温暖化()	対策、気候変動枠組条約京都議定書		
15	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成		
16	生物の多様性など	生物多様性、砂漠化、海洋汚染、熱帯雨林		
17	地球環境問題まとめ	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任		
18	エネルギー問題()	日本の1次エネルギー現状		
19	エネルギー問題()	再生可能エネルギー、自然エネルギー		
20	エネルギー問題()	エネルギー利用効率、コージェネレーション		
21	廃棄物問題()	一般廃棄物、産業廃棄物		
22	廃棄物問題()	医療廃棄物、感染性廃棄物、特定管理廃棄物		
23	廃棄物問題()	廃棄物処理の過程		
24	食品の安全性()	食料生産の現状、窒素循環		
25	食品の安全性()	フードマイレージ、検疫薫蒸		
26	食品の安全性()	ダイオキシン、環境ホルモン		
27	難分解性汚染物質	有機塩素化合物、POPs、生物濃縮		
28	循環型社会	3R、熱回収、適正処分		
29	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり		
30	定期試験	筆記試験		

教科書	
参考書	

授業科目名	情報処理	担当教員	西谷泉
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科目の目的	Word、Excel等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実践的に習得する。
学習到達目標	Word、Excel等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関連科目	「情報学」(後期)・・・「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成績評価方法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネットの基礎的内容を指導する		【疫学・保健統計】 11-A-a) コンピュータとソフトウェア b) ネットワークとインターネット c) データの電子化 d) 個人情報の秘密保持 11-B. データベース 11-C. レコードリンケージ
2	データの電子化、個人情報の秘密保持	データの電子化、個人情報の秘密保持の基礎知識について指導する		
3	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する		
4	文字入力	Word を使った文字入力を指導する		
5	文書入力、文書の作成	簡単な文書作成を指導する		
6	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する		
7	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する		
8	文書と表の結合	文書中に表を挿入することを指導する		
9	データベース、レコードリンケージ	データベース、レコードリンケージについて指導する		
10	ビジュアルな文書の作成	ビジュアル化によって、見やすく分かりやすい文書の作成を指導する		
11	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する		
12	プレゼンテーションの基本事項	プレゼンテーションの基本事項・留意事項を指導する		
13	プレゼンテーションの作成	具体的なプレゼンテーションのスライドの作成を指導する		
14	課題発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	課題発表 試験	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う 試験を実施する		

教科書	「30時間でマスター Word2002」宮詰正幸他(実教出版) 「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2000」永井克昇他(実教出版)
参考書	

授 業 科 目 名	情 報 学	担 当 教 員	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、統計学及び情報処理の基本的な知識・技能を実践的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果を PowerPoint を用いてプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	「情報処理」(前期)…「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	統計学の基礎	統計学の歴史について指導する		
2	統計学の基礎	統計学の基本的事項について指導する		
3	Excel の基本	Excel の基本基本的事項について指導する		
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均の求め方について指導する		
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する		
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値の求め方について指導する		
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する		
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する		
10	データベースの基本事項	種々のデータのデータベース作成について指導する		
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する		
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の一般的な埋め込みについて指導する		
13	Word への Excel のリンク埋め込み	Word への Excel のリンク埋め込みについて指導する		
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
16	試験	試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2002」小倉俊悦他（実教出版）
参 考 書	

授 業 科 目 名	総 合 講 座	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・グループワーク
科 目 の 目 的	設定したテーマについて、専門の異なる複数の教員が異なる角度から論じることにより、当該テーマを多角的・多元的に考察することを目的とする。本年度のテーマを「ライフワークと私」とし、学生が役割モデルを見出し、また、自身の人生を考える契機としたい。
学 習 到 達 目 標	各自の職業人、社会人としての将来像をより具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【この科目が基盤となる専門基礎科目】看護学入門 リハビリテーション概論
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえたグループワークの成果物および個人のレポートに出席点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	オリエンテーション ジェンダー研究	異なる分野の研究・教育・実践をライフワークとする教員が、自身とライフワークを語るオムニバス形式の講座である。本講座にはコーディネイターを置く。コーディネイターは、担当者間の連絡調整、講義と講義の関連づけ、講義を踏まえた学生のグループワークの運営等講座全般の運営にあたる。 総合講座の趣旨、テーマ、運営方法、期待すること等について説明する（コーディネイター 内藤和美） 専門を替え、男女共同参画社会形成関連の政策過程を中心とするジェンダー・スタディーズの研究・教育をライフワークとするようになった者として（内藤和美）		
2	精神看護学・認知症 高齢者の看護学	精神看護学、認知症高齢者の看護に関する教育・研究をライフワークとする者として（斎藤和子）		
3	理学療法学	新生児から高齢者、超早期から慢性期という幅広い臨床の実践者としての経験の後、理学療法の基礎と臨床の研究・教育をライフワークにするようになった者として（江口勝彦）		
4	地域保健学	地域で生活する精神障害者を支えるシステムづくりを中心に、地域保健の研究・教育・実践をライフワークとする者として（矢島まさえ）		
5	スポーツ科学	肥満関連ホルモンレベルに及ぼす運動の効果の研究を中心に、スポーツ科学の研究・教育・実践をライフワークとする者として（近藤照彦）		
6	国際医療協力	災害救護を含む国際医療協力の研究・教育・実践をライフワークとする者として（矢嶋和江）		
7	老年心理学	老人の行動と心理の研究・教育をライフワークとする者として（北川公路）		
8	グループワーク	各人が、保健医療専門職および関連分野の先輩である各教員の自身とライフワークの開示をどう聴いたかを論じ合い、成果を回収するためのグループワークを実施する（コーディネイター 内藤和美）		

教 科 書	使用しない。各教員が用意する。
参 考 書	

授 業 科 目 名	保 健 統 計 基 礎	担 当 教 員	石 井 満
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	従来、臨床現場での推定や判断は経験的・感覚的な事柄が基本となっていることが多く科学性が稀薄であり、時には主観的でさえあった。このことを是正することが必要であり、このための大きな手法が統計学に基づく科学的解析であり、この方向性が先進国の基本的傾向である。以上のことに基づき、臨床データの分析方法を理解し、応用することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	臨床データの分析目的とそれに対応する各方法を理解し、的確に応用できるようになること。このために、可能な限り多種類の臨床データを例題として配布するとともに理論補強のプリントを随時大量に配布する。平方根(ルート)の付いている電卓を用意すること。
関 連 科 目	全ての専門科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、定期試験等を総合的に評価する。(出席重視)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	統計学とは 資料(データ)の整理	統計学の概要と、臨床例を用いてその必要性を述べる。 平均、限られた範囲での平均、分散、標準偏差、度数分布、相関の各意味と応用		
6	正規分布	正規分布の誘導と応用		
9	標本と標本分布	標本と標本抽出。平均 \bar{x} や二項、カイ2乗、t、Fの各分布		
11	推定理論	点推定、真の値の(平均値、分散等の)区間推定		
16	検定理論	理論の構造、t検定、F検定		
20	クロス集計とカイ2乗検定	クロス集計とその応用、独立性および適合度検定		
23	回帰分析	回帰分析、相関分析、分散分析表、重回帰分析		
26	調査と質的データ	数値で表せないデータ(質的データ) 数量化 類・類・類		
30	期末試験 (別に、前期中にテストをすることもありうる。)			

教 科 書	「やさしい医療系の統計学」佐藤敏雄、村松宰 著(医歯薬出版)
参 考 書	「データのまとめ方使い方」中元藤茂他(医歯薬出版) 「統計技術とその理論」石井 満(森北出版) 他 講義時に紹介する。

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	遺伝子治療、オーダーメイド医療など分子生物学的手法に基づいた治療、また fMRI など画像技術を用いた脳の機能局在の詳細な解明など、近年の医学、医療分野の進歩には目覚ましいものがある。また、そのような技術を用いた高齢化問題に付随する老化、生活習慣病の研究なども数多くなされている。医学、医療に携わるものはこれらの理解が必要であり、そのためには根本となる生物学の知識が必須である。本科目では高校で生物を学んでこなかったものを対象とし、専門的分野の学習の基礎となる生物学知識（特に生物学的観点からみた人間についての知識）を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. DNA など遺伝現象の基礎知識の習得、及びそれを応用した遺伝子診断などについて理解 2. 神経、脳の機能についての理解 3. 人間の恒常性についての知識の習得、老化現象の理解
関 連 科 目	関連し合う教養科目 - 生命科学 生命倫理 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 生化学 生理学 疾病の成り立ち 免疫・感染症学
成 績 評 価 方 法	中間試験、最終試験の合計にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	イントロダクション	本講義の目的、進め方、目標等の説明		
2	遺伝現象(1)	遺伝子 DNA について		
3	遺伝現象(2)	ヒトゲノム解析と医学、医療分野での応用		
4	遺伝現象(3)	遺伝子からみた男女の違い		
5	遺伝現象(4)	クローン技術と医学、医療分野での応用		
6	脳(1)	脳の機能局在		
7	脳(2)	脳波、脳内物質の基礎		
8	中間試験	筆記試験		
9	病気	ウイルスと病気の関係		
10	栄養	食物に含まれる栄養成分とその役割		
11	恒常性	体内環境を一定に保つ仕組み		
12	老化	老化による生物学的変化		
13	進化	生命の起源とヒトの出現		
14	環境問題	人間の営みが環境に与える影響		
15	最終試験	筆記試験		

教 科 書	「好きになる人間生物学」吉田邦久（講談社） 上記に加え随時プリントを配布する。
参 考 書	指定なし。

授業科目名	化学基礎	担当教員	吉 國 忠 亜
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義は板書および OHP を使って開示し、幾度か簡単な示唆実験と合成実験を演示する。
科 目 の 目 的	化学の歴史は古くから基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校で化学を学ばなかった学生に対しても、看護学、理学療法学の学習に必要な化学の基本を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	化学の領域は密接に医学と結びついているので、化学を知ることにより、看護学や理学療養の治療・処置・治験を深く理解できる。高校の化学教科書に記載の一般的知識を土台にして、その分野の真髄を深く追求する。
関 連 科 目	高校の化学教科書が理解できるような一般的な化学全般を科目とするが、更に生化学、放射化学、天然物化学も含めている。
成 績 評 価 方 法	講義毎に行なう小テストと出席点および学期末定期テストを加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	物質の構成	周期表、原子、水素、同位体、放射能	放射線宿酔	放射線
2	化学結合	種類；イオン、配位、共有、金属、水素	薬剤濃度	注射液
3	物質の量	パーセント濃度、モル、規定度、アボガドロ数、	肺炎禁忌、	
4	物質の状態変化	三態、化学平衡、分子軌道、同素体	酸塩基平衡	
5	気体の性質	状態方程式、昇華、加熱組成曲線	血液 PH,	
6	溶液の性質	水、溶媒和、組成曲線、酸解離定数、	チアノーゼ	
7	化学反応と熱	反応次数、活性化熱、ボルン・ハーバー	呼吸気系作用薬、UV 障害	呼吸機能、光化学大気汚染
8	酸と塩基の反応	中和反応、PH, 指示薬、緩衝液、	床上安静、貧血、痴呆症	
9	酸化還元反応	酸化数、形式電荷、酸化還元剤、ヘム	DNA, 欠乏症、	
10	非金属元素と周期表	典型元素、ハロゲン、酸素	洗浄、尿症、気管支拡張	気管支拡張
11	金属元素の性質	構造、反応、伝導度、アルカリ土類、遷移	副腎皮質、乳汁	精神障害
12	有機化合物の構造	異性体、立体、アミノ酸、核酸、ビタミン		
13	脂肪族炭化水素	アルカン、エチレン、アセチレン		
14	脂肪族酸化化合物	アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル		
15	芳香族化合物	ベンゼン、複素環、ステロイド		

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	物理学基礎	担当教員	横井利男
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	演示実験・講義
科目の目的	看護や理学療法には、熱、温度、力、運動など物理学の知識が必要である。また、最新の医療機器には原子構造や量子論など最先端の物理学の成果を活用しているものが少なくない。 この科目は、高等学校で物理、理数物理を履修していない学生を想定して、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学習到達目標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象については、数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関連科目	運動学 物理療法学
成績評価方法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	力学	・運動と力 (運動・速度と加速度・重力の加速度)		
2		・エネルギー (運動エネルギーと位置エネルギー)		
3		・円運動 (円運動と単振動・万有引力による運動)		
4				
5	熱力学	・熱エネルギー (熱と温度・エネルギーの変換)		
6		・原子、分子の運動 (物質の三態・分子の運動と圧力)		
7	波	・いろいろな波		
8		・音と光 (音の伝わり方・音の干渉と共鳴・光の伝わり方 光の回折と干渉)		
9	電磁気学	・電界と磁界 (電荷と電界・電流による磁界)		
10		・電磁誘導		
11		・電磁波		
12	現代物理学入門	・原子の構造(電子の軌道とスペクトル)		
13		・量子論		
14		・固体の性質(半導体)		
14		・粒子と波		
14		・原子核の構造		
14		・素粒子と宇宙		
15	定期試験	筆記試験		

教科書	プリントによる。
参考書	「基礎からの物理学」原 康夫(学術図書出版社)

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	担 当 教 員	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。
科 目 の 目 的	これからの英語学習についていけるよう、今までに学習してきた英語の基本事項の復習を目的とする。
学 習 到 達 目 標	基本的文法力をしっかりと身につけること、正確な発音ができるようになること、英和辞書を活用できるようになること。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	出席状況・授業への参加度・平常試験・期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明		
2	動詞の現在形	Unit 1, 2 : be 動詞と一般動詞の現在形の復習		
3	疑問文	Unit 3 : 様々な疑問文の作り方の復習		
4	動詞の過去形	Unit 4, 5 : be 動詞と一般動詞の過去形の復習		
5	特殊な文、未来形	Unit 6, 7 : 命令文、感嘆文、未来を表す文の作り方の復習		
6	進行形、助動詞	Unit 8, 9 : 様々な進行形、助動詞を含んだ文の意味と作り方の復習		
7	Review	Unit 1~9 の復習		
8	英文の型、受動態	Unit 10, 11 : 5 つの文型, 受動態の作り方の復習		
9	比較、完了形	Unit 12, 13 : 様々な比較を表す文、完了形の作り方と完了形の表す意味の復習		
10	不定詞	Unit 14 : 不定詞の用法の復習		
11	分詞、動名詞	Unit 15, 16 : 分詞の用法、動名詞の働きの復習		
12	節	Unit 17 : 節とは何かとその働きの復習		
13	関係代名詞	Unit 18 : 関係代名詞の格、使い方の復習		
14	熟語、it の用法	Unit 19, 20 : 基本的な熟語を含む文の暗記、it の様々な用法の復習		
15	Examination	期末試験		

教 科 書	「First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門」 大坂四郎 著 (南雲堂)
参 考 書	英和辞書

授業科目名	解剖学	担当教員	石川 知市 律郎 見 知 市 郎
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義・見学実習
科目の目的	看護学を学ぶための最も基本的な知識となる人体の構造を学ぶ。各器官系ごとに骨格系、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に分け、それぞれ関連づけながら学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、看護学を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	生理学 生化学 疾病の成り立ち
成績評価方法	中間試験と定期試験で評価する。 解剖学見学実習に参加することを単位認定の条件とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。器官とその系統	必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 K) 骨・筋 「人体の構造と機能」 8. 運動系 A. 姿勢 a) 体位と構え B. 骨格 a) 骨の構造と機能 b) 体の支柱 c) 四肢の骨 d) 頭蓋骨と胸郭 C. 骨格筋 a) 骨格筋の構造 b) 筋収縮の機能 c) 抗重力筋 d) 四肢の筋 e) 頸部の筋 f) 表情筋 g) 呼吸筋 h) 骨盤底筋 D. 運動 a) 関節の構造 b) 関節運動の種類 c) 随意運動と不随意運動 d) 脊髄反射 4. 循環系 A. 心臓 a) 心臓と心筋の構造 b) 心臓の機能 c) 刺激伝導系 B. 血管系 a) 肺循環と体循環 b) 動脈系と静脈系 c) 脈拍 d) 血圧 e) 胎児の血液循環 c. リンパ系 a) リンパ管	
2	組織学概説	組織とその分類		
3	骨格系 1	骨格とは何か、骨のかたち、骨の基本構造、骨の発生と成長、関節		
4	骨格系 2	頭部の骨		
5	骨格系 3	脊柱、胸郭		
6	骨格系 4	上肢の骨格、下肢の骨格		
7	筋系 1	筋総論、頭頸部の筋		
8	筋系 2	胸腹部の筋		
9	筋系 3	上肢の筋、下肢の筋		
10	脈管系 1	脈管系総論、心臓		
11	脈管系 2	動脈系		
12	脈管系 3	静脈系、胎生期の循環系		
13	脈管系 4	リンパ系、脾臓、胸腺、血液、血球		
14	消化器系 1	総論、口腔	必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 h) 消化器 10. 栄養摂取の機構 B. 咀嚼 a) 歯・口腔の構造と機能 b) 咀嚼の過程 C. 嚥下 a) 咽頭の構造と機能 b) 食道の構造と機能 c) 嚥下の過程 D. 消化と吸収 a) 胃の構造と機能 b) 十二指腸の構造と機能 c) 空腸・回腸の構造と機能 d) 結腸の構造と機能 e) 肝臓と胆道の構造と機能 f) 膵臓の構造機能	
15	消化器系 2	咽頭、食道、胃		
16	消化器系 3	小腸、大腸		
17	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓		
18	呼吸器系 1	総論、鼻腔、副鼻腔、喉頭	必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 e) 循環器 f) 呼吸器 9. 呼吸の機構 A. 換気と発声 c) 気管・	
19	呼吸器系 2	気管、気管支、肺		
20	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
21 22	生殖器系 1 生殖器系 2	男性生殖器 女性生殖器	肺の構造と機能 d)呼吸運動 e)肺気量 f)声帯と発生 必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 i) 泌尿気 11 排泄の機構 A. 尿の生成 a)腎臓の構造 b)濾過 c)再呼吸 C. 排尿 a)膀胱の構造神経支配 b)尿道の構造と神経支配 D. 排便 a)直腸・肛門の構造と神経支配 必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 l) 性と生殖 12. 性と生殖に関する機構 A. 女性の生殖器 a)女性生殖器の構造 B. 男性の生殖器 a)男性生殖器の構造	
23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	7、液性調節(内分泌系) C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a)視床下部 b)下垂体 c)甲状腺 d)上皮小体 副甲状腺 e)膵島 f)中枢神経系を保護する組織 g)副腎髄質 h)消化管ホルモン i)腎臓のホルモン j)性腺ホルモン	
24 25 26 27 28 29 30	神経系 1 神経系 2 神経系 3 神経系 4 神経系 5 感覚器 1 感覚器 2	総論、中枢神経系(脊髓、延髄、橋、小脳、中脳) 中枢神経系(間脳、大脳、脳の血管、脳室、脳脊髄膜) 末梢神経系(脳神経) 末梢神経(脊髓神経、自律神経) 伝導路(反射路、求心性伝導路、遠心性伝導路) 視覚器、平衡聴覚器 皮膚	必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 g) 神経細胞と情報伝達 5、神経性調節 A 神経組織 B 中枢神経の構造と機能 (ア)末梢神経系 6、感覚と認識 A. 視覚 B. 聴覚と平衡覚 C. 嗅覚と味覚 D. 皮膚感覚 人体の構造と機能 目標 1・2 1 生命 E. 人体をおおう皮膚と膜 a)皮膚の構造と機能 b) 漿膜・粘膜	

教科書	「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂)
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎(南江堂)

授業科目名	解剖学	担当教員	石川 春市 律郎 見知市郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	骨、筋、関節などの運動器、末梢および中枢神経系、感覚器の構造の詳細を機能と関連させつつ局所解剖学的に学習する。
学習到達目標	1、上肢、下肢、体幹の運動を筋学、靭帯学、血管学を互いに関連させ、運動器としての統合機能を学び、機能障害との関連を理解する。 2、中枢神経系および感覚器の構造を機能との関連で学び、機能障害との関連を理解する。
関連科目	生理学 疾病の成り立ち 臨床各科
成績評価方法	定期試験による。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	上肢(1)	上肢帯、上腕		
2	上肢(2)	前腕、手		
3	下肢(1)	下肢帯、大腿		
4	下肢(2)	下腿、足、歩行		
5	体幹(1)	背部、脊椎、固有背筋		
6	体幹(2)	胸部、呼吸筋		
7	体幹(3)	腹部、腹筋		
8	頸部	頸部、前頸筋		
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋		
10	中枢神経系(1)	脊髄、延髄、橋、小脳		
11	中枢神経系(2)	中脳、間脳、終脳		
12	中枢神経系(3)	神経路		
13	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系		
14	演習(1)			
15	演習(2)			

教科書	「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂)
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎(南江堂)

授業科目名	生 理 学	担当教員	澤 田 只 夫
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、人体解剖模型；適時配布するプリント資料
科 目 の 目 的	人体の各部分の形態と構造そしてそのはたらき（機能）を統合した学問“人体の構造と機能”として、看護職に必要な十分な、そして更に臨床に必要な基礎知識の修得と思考力を養い、その対象となる『人間』の理解を深めることをねらいとする。また、代表的な疾患の病態生理も適時に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	生理学では、解剖学で学んだ正常なからだの構造と形態に基づくそのはたらき（機能）について、両分野を統合したかたちで理解出来るようになることである。
関 連 科 目	成人看護学 母性看護学 老年看護学 病態生理学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生命とは	細胞・組織・器官・体液	a.細胞の構造 b.細胞内小器官の構造 c.遺伝情報 d.体液の電解質 e.体液の酸塩基平衡	
2 3	血液	血液の成分と機能/赤血球・白血球・血小板/血漿/血液凝固/血液型	a.血液のはたらき b.血液の物理化学的特性 c.血液の成分 d.造血 e.凝固と線溶 f.凝固時間と出血時間 g.血管内凝固 h.A・B・AB・O型およびRh型	
4 5	循環	心臓血管系/血圧・血流・脈拍/循環の調節/リンパ循環/胎児循環	a.心臓の構造 b.心臓の機能 c.血管の構造 d.動脈系と静脈系 e.脈拍 f.血圧 g.リンパの流れ h.胎児の血液循環 i.血管の老化	
6 7	呼吸	呼吸器系/呼吸器系の機能/肺機能の測定/ガス交換とガスの運搬/呼吸の調整	a.鼻腔の構造と機能 b.咽頭・喉頭の構造 c.器官・肺の構造 d.呼吸運動 e.肺機能の測定 f.声帯と発声 g.外呼吸と内呼吸 h.ガス分圧 i.酸素の運搬 j.二酸化炭素の運搬 k.呼吸中枢 l.呼吸に影響を与える因子	
8 9	生体防御機構と免疫	生体の防御機構と免疫/生体の防御機構に働く器官と因子/免疫反応の分類/炎症とアレルギー	a.生体表面のバリアー b.細胞と化学物質 c.免疫系の細胞 d.抗原 e.液性免疫 f.細胞性免疫 g.胸腺・脾臓 h.免疫グロブリン i.アレルギー	
10 11 12 13	消化と吸収, 栄養と代謝	食物摂取と消化器系/消化と吸収/食欲, 栄養と代謝/生体内の物質代謝/エネルギー代謝	a.血糖と食欲の中枢 b.咀嚼の過程 c.口腔の構造と機能 d.嚥下の過程 e.咽頭の構造と機能 f.食道の構造と機能 g.胃の構造と機能 h.十二指腸の構造と機能 i.脾臓の構造と機能 j.肝臓と胆嚢の構造と機能 k.空腸・回腸の構造と機能 l.結腸の構造と機能 m.栄養所要量 n.代謝とは o.基礎代	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14 15	尿の生成と排尿	腎臓と尿の生成/腎臓の構造と機能/腎機能の測定/尿生成の調節/蓄尿と排尿	謝 p.エネルギー代謝 q.炭水化物の代謝 r. 脂肪の代謝 s.蛋白の代謝 t.核酸の代謝 a.腎臓の構造 b.濾過 c.再吸収 d.分泌 e. 尿量の調節 f.膀胱の構造と神経支配 g.尿道の構造と機能 h.直腸・肛門の構造と神経支配	
16	* Midterm Exam	第1～15回		
17 18 19	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系	a.神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 神経膠細胞 d.大脳の機能と構造 e.間脳の構造と機能 f.脳幹の構造と機能 g.小脳の構造と機能 h.脊髄の構造と機能 i.中枢神経系を保護する組織 j.伝達路 k.脳神経 l.脊髄神経と神経叢 m.体性神経系 n.自律神経系	
20 21 22 23	内分泌	ホルモンの一般的特徴/内分泌器官の機能	a.ホルモンの化学的性質 b.ホルモンの作用機序 c.フィードバック機構 d.視床下部ホルモン e.下垂体の構造とホルモン f.甲状腺の構造とホルモン g.上皮小体の構造とホルモン h.膵島の構造とホルモン i.副腎皮質の構造とホルモン j.副腎髄質の構造とホルモン k.消化管ホルモン l.腎臓のホルモン m.性ホルモン	
24 25	生殖, 成長・老化	生殖とは/受精・妊娠・分娩、個体の成長/更年期/老化	a.女性生殖器官の構造 b.卵の成熟 c.性周期 d.妊娠・出産 e.男性生殖器官の構造 f.精子の形成 g.個体の成長・更年期・老化の生理	
26 27	感覚 皮膚と膜	感覚の一般的性質/視覚/聴覚/平衡感覚/嗅覚と味覚/体性感覚/内臓感覚/痛覚) (皮膚の機能/皮膚の腺/人体の膜の機能)	a.視覚器の構造 b.視覚の伝導 c.眼球運動 d.眼球に関する反射 e.平衡聴覚器の構造 f.平衡覚 g.聴覚 h.嗅覚と嗅覚受容器 i.内臓感覚 j.味覚と味蕾 k.皮膚の構造と機能 l.漿膜・粘膜・滑膜 m.皮膚の感覚受容器 n.皮膚感覚の種類	
28	体温の調節,	体温/体熱の産生と放散/体温の調節/発熱、ホメオスタシスと生体リズム	a.体温 b.ホメオスタシス(恒常性) c.サーカチアンリズム d.睡眠と覚醒	
29 30	運動	運動器系とは/骨・関節・筋の機能/筋収縮のしくみ/運動の調節	a.体位と構え b.体位と神経・脳の発達 c.骨の構造と機能 d.筋の構造 e.収縮の機能 f.呼吸筋の役割 g.骨盤底筋と役割 h.関節運動とはたらき i.随意運動 j.不随意運動	
	* Final Exam *			

教科書	「ナースング・グラフィカ 解剖生理学」(メディカ出版)
参考書	「入門人体解剖学」 藤田恒夫著 (南江堂)

授業科目名	生 化 学	担当教員	澤 田 只 夫
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、プリントを使用
科 目 の 目 的	看護の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界(生命と物質との繋がり)を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく看護(EBN)」をめざし、基本的で、かつ臨床看護に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	栄養学 基礎看護学(バイタルサイン) 臨床看護学(外科系の術前・術後の処置、内科系の代謝疾患の理解) 臨床検査学(検体分析値の理解) 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 微生物学 生理学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/代謝 生体で起きている化学反応		
2	タンパク質の性質	タンパク質の分類/タンパク質を構成しているアミノ酸はL-a-アミノ酸である/タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している/タンパク質の高次構造/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質		
3				
4				
4	酵素の性質と働き	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用		
5	生体内における糖質の代謝	糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病		
6				
7	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常		
8		* <u>Midterm Exam</u> *		
9	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応/脱炭酸反応/尿素回路/糖新生/エネルギー代謝/分枝鎖アミノ酸の代謝/含硫アミノ酸の代謝/オキシアミノ酸の代謝/芳香族アミノ酸の代謝/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動		
10				
11	生体内における核酸の役割	核酸の所在/2種類の核酸と構造核酸はコピーされる/タンパク質を作るための核酸/いらなくなった核酸の処分/核酸の仲間/遺伝病の犯人は?/遺伝子操作のもたらす世界		
12				
		* <u>Final Exam</u> *		

教 科 書	「系統看護学講座 専門基礎2 生化学」(医学書院)
参 考 書	

授業科目名	疾病の成り立ち	担当教員	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	特になし
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	序論 病理学とは	病理学とは。病因論。内因。外因。公害病と医原病。疾病の分類。	目標 1 1A病むとはどういうことか。1B疾病の誘因と回復力。	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患。奇形の種類。遺伝の関与と奇形。遺伝異常による疾患。遺伝性疾患の診断と治療。	目標 2 1 異常状態の特徴。A d 先天異常。	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応。変性。壊死とアポトーシス。細胞の適応。細胞障害の結果としての物質沈着。	目標 2 1 異常状態の特徴。A b 変性。A c 壊死。	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患。タンパク質代謝異常と疾患。糖質代謝異常と疾患。その他の有機質の代謝異常と疾患。無機質の代謝異常と疾患。	目標 2 1 異常状態の特徴。B b 代謝異常。	
5	循環障害 1	循環器系の概要。循環血液量の異常。充血。うっ血。虚血。出血。ショック。	目標 2 1 異常状態の特徴。A d 循環障害。	
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害。血栓症。播種性血管内凝固。塞栓症。側副循環。リンパの循環障害。	目標 2 1 異常状態の特徴。A d 循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症。炎症の原因。炎症の経過。創傷治癒。炎症の治療。炎症の各型。	目標 2 1 異常状態の特徴。A a 炎症。	
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー。自然免疫系と適応免疫系。免疫担当細胞。抗体と補体。能動免疫と受動免疫。	目標 2 1 異常状態の特徴。B a 免疫。目標 1 1 B 疾病の誘因と回復力。	
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全。先天性免疫不全。エイズ。移植と自己免疫。主要組織適合複合体。膠原病。	目標 2 2E 免疫および自己免疫疾患患者への看護の視点。	
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類。異形度・分化度・悪性度。悪性腫瘍の転移と進行度。	目標 2 1 異常状態の特徴。A g 腫瘍。A f 過形成。	
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理。腫瘍の発生原因。がん発生の外因。がん発生の内因。腫瘍の診断と治療。がんの予防。	目標 2 1 異常状態の特徴。A g 腫瘍。	
12	老化と死	老化とは。ホメオスタシスの老化。主要組織・臓器の老化。死について。	目標 2 1 異常状態の特徴。A c 老化。	
13	病理検査	病理検査の意義。細胞診。生検組織診。手術時の迅速診断。病理解剖。病理組織・細胞診標本の作製課程。	目標 2 2A 異常状態に対する診断過程と看護。A b 一般的検査と特殊な検査。	
14	その他	必要に応じて上記を補う。		
15	その他	必要に応じて上記を補う。		

教科書	
参考書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)

授業科目名	薬理学	担当教員	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用についても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関連科目	特になし
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。投与経路と薬の吸収。分布，代謝，排泄。	必修問題 - 4A h)麻薬 4A e)昇圧薬 4A c)強心薬 4A c)抗不整脈薬 4A d)狭心症治療薬 4A e)降圧薬 4A g)糖尿病治療薬 4A f)副腎皮質ステロイド薬 4A b)抗がん薬 4A a)抗菌薬 4B a)混合の可否 4B b)禁忌	
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。		
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬(抗てんかん薬)。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。		
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。		
5	強心薬。抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。		
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。		
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。		
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。		
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。		
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。		
11	皮膚疾患に用いられる 薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤。 造影剤。放射性医薬品。		
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる 薬剤。点眼薬。輸液	ショックの原因別分類。ショックの対応と薬剤。 点眼薬。輸液の目的。輸液剤。		
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬。ビタミン剤	中毒の状態。急性中毒に対する処置。解毒剤。 排泄と吸着。代謝賦活薬・ビタミン剤 小児の薬物療法。妊婦の薬物療法。老年者の薬物療法。 嗜好品の薬理。薬物相互作用。		
14	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法。 嗜好品の薬理と薬物	薬剤の保存。薬剤の混合、配合変化(配合禁忌)。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	相互作用 薬剤の安定性：保存 および混合の問題点。 試験。			

教科書	
参考書	「新版看護学全書 6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メジカルフレンド社)

授業科目名	看護学入門	担当教員	千田サダ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	学問の地図を概括し、医療領域における看護の位置と性格について考えながら健康にかかわる総合科学としての意義と Vocational Education について理解する。
学習到達目標	1. 保・助・看養成所指定規則にもとづく看護学の意義を理解する。 2. 健康に関わる各職種間における看護の位置と co-medical member との関連性を理解する。 3. 理論と実践の関連性を科学的に意識づける。 4. 看護は、社会・人間・生物との普遍性にもとづく学問であり職業であることを認識する。
関連科目	全教科目
成績評価方法	1. 出席状況 2. レポート又は定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Vocationの意義	1. 生命倫理にもとづく生物体の共存 2. 社会倫理と人間の存在と個人の尊重 3. 生命(生活)援助者としての倫理 4. 職業意識と倫理		
2	総合保健医療福祉における職業の意義	1. 保健・医療・福祉分野の職種別窓口と個人の総合性 2. 治療行為と生命体の自然性に対する職種間の自・他立行為への考察 3. 身体(唯)生物と捉えることの問題		
3	「学問」の位置と「科学」への推論	1. 人間科学における総合科学の意義(学問の地図) 2. 「専門」とは何か Profession & Special		
4	理論と実践の科学(1)	1. 人間 = 生物~動物~社会~環境~心理~霊長類 2. 職業 = 細胞~化・物・数~解剖・生化~社~文化~経済~宗教 看護の実践 = 全体論の関係		
5	理論と実践の科学(2)	1. Problem Oriented System 2. Subjective, Objective, Assessment, Planning 3. Record (PONR)		
6	理論と実践の科学(3)	1. 自己看護・他者看護 生物体の本能・習性・先天的習性 2. 看護 = 癒しの技術 理論(方法・技術) 実践(研究)~理論... 3. 看護者人格 人間性、教養~実践の道具性		
7	チーム医療と総合看護	1. 各職種 Specialist 間の communication と連携 2. 看護職とは人間(個人)の健康を身体的・心理的・社会的統一体として捉えることを原点にした実践科学 3. 健康援助活動における看護師の位置、理学療法士の位置、Dr....他		
8	「健康」とは何か	1. 生物体について「丈夫」と「病気」、「不健康」と「健康」の意義を考える 2. WHOの健康憲章をもとに「健康観」を考える 3. disease, patient, life stage, normal handicap, client 心身症		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	「人間」とは何か	1. 統一体について 2. 社会と環境にもとづく人間性 3. 基本的欲求と学習 4. 個人・個別性 > 普遍性		
10	「看護」の学問	1. 生物としての自然的ケア・自己ケア（欲求）の本能 2. 祖先・親子への本能的伝達～理論的経験の発展 3. 学問・科学・理論の構築～法的専門性の樹立 教育的発展、危機的問題の予防		
11	養成所指定規則	1. 歴史的過程 2. 専門性の確立 3. 理論的科学的的研究の発展 4. （付）専門看護（師）制度（日本看護協会認定）		
12	養成所指定規則	1. 看護学について 2. 看護の対象にもとづく、comedical 間における看護の位置		
13	看護することの哲学（1）	1. 人間存在の意義 デカルト的人間観と全体論的比較 2. 実存・自己概念について 3. 人類の発生 唯物と唯心		
14	看護することの哲学（2）	1. 看護実践の理論・使命感 2. 専門職の使命 3. 「看護」の語源にもとづく理解		
15	看護することの哲学（3）	1. Clinical Epidemiology 2. Evidence Based Medicine		

教科書	「看護法令要覧」編集 門脇豊子 清水嘉与子 森山弘子（日本看護協会） 「看護覚え書」ナイチンゲール 訳 湯楨ます 他（現代社） 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 訳 小玉香津子 他（日本看護協会）
参考書	

授業科目名	臨床心理学	担当教員	勝俣 瑛史
対象学年	第 1 学年	学期	後期 集中
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	講義
科目の目的	保健医療領域におけるサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学習到達目標	(1)保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し,(2)適切な支援のための基礎的な知識と実践力を習得すること。
関連科目	すべての科目と関連
成績評価方法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	臨床心理学とは	1. 心理学とは		
2		2. 臨床心理学の定義 3. 問題行動の意味 4. 医療領域における臨床心理学的視点		
3	心理アセスメント (査定)	1. 問題行動の心理アセスメント		
4		2. 行動観察による心理アセスメント 3. 面接法による心理アセスメント		
5		4. 心理検査によるアセスメント(1) 質問紙形式の心理検査 5. 心理検査によるアセスメント(2) 作業形式および投影法による心理検査		
6	心理療法の理論と 実際	0. 心理療法とは		
7		1. 医療領域に生かせる心理療法		
8		2. カウンセリング		
9		3. 行動療法・認知行動療法		
10		4. 自律訓練法・動作法(臨床動作法)		
11		5. 芸術療法と描画法		
12		6. 回想法		
13		7. 記憶リハビリテーション(1)		
14	8. 記憶リハビリテーション(2)			
15	まとめ 試験			

教科書	「臨床心理学序説」高橋雅春・高橋依子(ナカニシヤ出版)
参考書	「コンピタンス心理学」勝俣瑛史(培風館) 「臨床心理学入門事典 現代のエスプリ別冊特集号」岡堂哲雄編(至文堂)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	担 当 教 員	王 娜 仁
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	この講義の目標として、公衆衛生の基礎的概念、疾病予防とそのための疫学調査法などを解説し、それから、人口動態と医療・福祉とのかかわり、保健、生活環境と健康、公害と疾病、食品衛生、労働衛生と産業医学、衛生統計の考え方、福祉と社会保障などにつき論じる。授業は、特に日本で問題とされている急速な高齢化の問題を軸として、統計資料の検討や各種の事例研究を交えながら進められる。
学 習 到 達 目 標	公衆衛生学とは地域にすべての人々の健康が維持・増進を目指している。 まず、公衆衛生の対象は一個人でなく、特徴を共有する集団であることを認識し、それから、社会制度として、集団あるいは社会の活動を通して考え、更に、疾病や傷害の治療よりも予防を重視している点を習得する。
関 連 科 目	保健統計 疫学 など
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、平常点を加えて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	公衆衛生の概念図	人口と公衆衛生 - 人口静態、人口動態	公衆衛生の概念	A 公衆衛生の概念
2	環境と健康	人間と生活環境・水・廃棄物、栄養と食品衛生・・・など	公衆衛生の領域、活動の特徴	公衆衛生の領域、活動の特徴
3	公衆衛生の技術	疫学の方法と因果関係の捉え方(1)疾病予防の原則、定義	プライマリヘルスケア	プライマリヘルスケア
4	公衆衛生の技術	疫学調査の方法	ヘルスプロモーションの展開	ヘルスプロモーションの展開
5	保健統計	感染性疾患の疫学と予防、非感染性疾患の疫学と予防	世界保健機関(WHO)加盟国の役割	世界保健機関(WHO)加盟国の役割
6	保健統計	保健統計の基本的な考え方(1)健康指標、傷病統計	人口の動向	B 健康と環境
7	労働衛生(産業保健)の動向	保健統計の基本的な考え方(2)公衆衛生における社会資源、保健医療統計情報システムの発展	a) 総人口	生態学的环境
8	公衆衛生の対象と活動	職場における健康管理 労働災害と安全対策、職場における健康保持増進・・・など	b) 年齢別人口	物理化学的環境
9	公衆衛生の対象と活動	高齢者、障害	c) 労働人口	社会的環境
10	公衆衛生の対象と活動	学校保健、母子保健	d) 将来推計人口	身体的、精神的・心理的影響
11	公衆衛生の法・制度・しくみ	地域と健康、保健	e) 世帯数	C 疫学的方法による健康の理解
12	公衆衛生の法・制度・しくみ	医療、社会福祉・制度・・・など	人口の動態	健康被害と母集団
13	公衆衛生の法・制度・しくみ	健康教育	a) 出生の動向	疫学的因果関係の推定
14	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 集団とコミュニティを対象とした政策立案	b) 死亡の動向	臨床疫学とエビデンス
15	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 活動と実践評価のプロセス	c) 死因の概要	健康に関連した指標
16	公衆衛生の法・制度・しくみ	情報公開、危機管理、生命倫理	健康状態と受療状況	国勢調査
17	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 看護をめぐる公衆衛生の動き	a) 平均余命	人口静態
18	公衆衛生の法・制度・しくみ	- これからの医療と看護	b) 有訴者の状況	出生
19	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 社会経済の発展と公衆衛生	c) 受療率	死亡・死因
20	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 危機管理と生命倫理	d) 入院期間	死産、周産期死亡、乳児死亡
21	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 国際化社会における公衆衛生		平均余命、平均寿命
22	公衆衛生の法・制度・しくみ	- 公衆衛生における人材育成		健康寿命
23	公衆衛生の法・制度・しくみ			有病率・罹患率
24	公衆衛生の法・制度・しくみ			
25	公衆衛生の法・制度・しくみ			
26	公衆衛生の法・制度・しくみ			
27	公衆衛生の法・制度・しくみ			
28	公衆衛生の法・制度・しくみ			
29	公衆衛生の法・制度・しくみ			
30	公衆衛生の法・制度・しくみ			
31	公衆衛生の法・制度・しくみ			
32	公衆衛生の法・制度・しくみ			
33	公衆衛生の法・制度・しくみ			
34	公衆衛生の法・制度・しくみ			
35	公衆衛生の法・制度・しくみ			
36	公衆衛生の法・制度・しくみ			
37	公衆衛生の法・制度・しくみ			
38	公衆衛生の法・制度・しくみ			
39	公衆衛生の法・制度・しくみ			
40	公衆衛生の法・制度・しくみ			
41	公衆衛生の法・制度・しくみ			
42	公衆衛生の法・制度・しくみ			
43	公衆衛生の法・制度・しくみ			
44	公衆衛生の法・制度・しくみ			
45	公衆衛生の法・制度・しくみ			
46	公衆衛生の法・制度・しくみ			
47	公衆衛生の法・制度・しくみ			
48	公衆衛生の法・制度・しくみ			
49	公衆衛生の法・制度・しくみ			
50	公衆衛生の法・制度・しくみ			
51	公衆衛生の法・制度・しくみ			
52	公衆衛生の法・制度・しくみ			
53	公衆衛生の法・制度・しくみ			
54	公衆衛生の法・制度・しくみ			
55	公衆衛生の法・制度・しくみ			
56	公衆衛生の法・制度・しくみ			
57	公衆衛生の法・制度・しくみ			
58	公衆衛生の法・制度・しくみ			
59	公衆衛生の法・制度・しくみ			
60	公衆衛生の法・制度・しくみ			
61	公衆衛生の法・制度・しくみ			
62	公衆衛生の法・制度・しくみ			
63	公衆衛生の法・制度・しくみ			
64	公衆衛生の法・制度・しくみ			
65	公衆衛生の法・制度・しくみ			
66	公衆衛生の法・制度・しくみ			
67	公衆衛生の法・制度・しくみ			
68	公衆衛生の法・制度・しくみ			
69	公衆衛生の法・制度・しくみ			
70	公衆衛生の法・制度・しくみ			
71	公衆衛生の法・制度・しくみ			
72	公衆衛生の法・制度・しくみ			
73	公衆衛生の法・制度・しくみ			
74	公衆衛生の法・制度・しくみ			
75	公衆衛生の法・制度・しくみ			
76	公衆衛生の法・制度・しくみ			
77	公衆衛生の法・制度・しくみ			
78	公衆衛生の法・制度・しくみ			
79	公衆衛生の法・制度・しくみ			
80	公衆衛生の法・制度・しくみ			
81	公衆衛生の法・制度・しくみ			
82	公衆衛生の法・制度・しくみ			
83	公衆衛生の法・制度・しくみ			
84	公衆衛生の法・制度・しくみ			
85	公衆衛生の法・制度・しくみ			
86	公衆衛生の法・制度・しくみ			
87	公衆衛生の法・制度・しくみ			
88	公衆衛生の法・制度・しくみ			
89	公衆衛生の法・制度・しくみ			
90	公衆衛生の法・制度・しくみ			
91	公衆衛生の法・制度・しくみ			
92	公衆衛生の法・制度・しくみ			
93	公衆衛生の法・制度・しくみ			
94	公衆衛生の法・制度・しくみ			
95	公衆衛生の法・制度・しくみ			
96	公衆衛生の法・制度・しくみ			
97	公衆衛生の法・制度・しくみ			
98	公衆衛生の法・制度・しくみ			
99	公衆衛生の法・制度・しくみ			
100	公衆衛生の法・制度・しくみ			

教 科 書	「系統看護学講座 公衆衛生 8」(医学書院)
参 考 書	「国民衛生の動向 2004」(財団法人厚生統計協会)

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成 績 評 価 方 法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1		リハビリテーションの定義、理念		
2		リハビリテーションの歴史		
3		障害論（定義、障害の三つのレベル）		
4		障害者の実態		
5		障害の心理		
6		リハビリテーションの流れ		
7		リハビリテーションのチームと職種		
8		医学的リハビリテーション（予防的、回復的、維持的		
9		リハビリテーションの定義、対象、方法）		
10		教育的リハビリテーション		
11		職業的リハビリテーション		
12		社会的リハビリテーション		
13		地域リハビリテーション		
14		寝たきり老人のリハビリテーション		
15		期末テスト		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授業科目名	栄養学（含食品学）	担当教員	志田俊子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習 調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科目の目的	「食は命の基本」とあるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学習到達目標	講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 提出物 100%
関連科目	解剖学 生化学 生理学 病理学
成績評価方法	定期試験、提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構	
2	栄養素の科学	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割	E. 代謝	
3		・ 炭水化物について	a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝	
4		・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について	d) 脂肪の代謝	
5		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造	e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝	
6		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質	g) ビタミン・ミネラル	
7		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
8		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)		
9		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
10		・ ミネラルについての自己学習時間とする		
11		・ 栄養素と食品群について 食品群の考え方 三群について 四群について 六群について		
12		・ 栄養摂取の実践 ・ 献立作成 ・ 献立作成の条件 ・ 資料の準備		
13		・ 献立作成用紙配布 各自献立を考える ・ 献立作成 栄養計算		
14		・ 栄養計算調整		
15		・ 栄養計算調整 ・ 献立作成の総括・反省		

教科書	「五訂 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参考書	

授業科目名	災害時生活体験	担当教員	高木タカ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義及び演習(グループワーク)
科目の目的	災害が発生しライフラインが途絶した状況下で自活して行く為の、基本的な知識、技術や判断力。応用力を集団生活を通して体験する。
学習到達目標	1.日常生活の中で災害に対する準備ができる。 2.ライフラインが絶たれた時の対処法がわかる。 3.集団行動を理解しその一員として行動できる。
関連科目	教養科目 心理学 生活学 地域社会学 専門基礎科目 免疫・感染症学 看護学入門 救急法 栄養学 国際医療協力 国際医療協力 専門科目 災害看護
成績評価方法	1.出席状況(講義及び演習) 2.レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	科目 オリエンテーション	科目の内容・学習の進め方、自己学習 グループワークについて		
2	デイキャンプ オリエンテーション	デイキャンプの目的・内容・実施方法・準備		
3	デイキャンプ評価	個人・グループ評価		
4	デイキャンプ評価発表	発表		
5	講義	災害とは 災害の種類とその特色 災害に対する対処 国・県・市町村・地域		
6	講義	災害に対する対処 個人と集団 個人の生命を守る 健康を維持する 私達はそれ以外に職業上の役割がある		
7	グループワーク	個人としてまた集団として生きるために		
8	グループワーク	何が必要か。		
9	グループワーク	人間の基本的ニード・安全のニード・社会的ニードなどについてグループワークする。		
10	グループワーク	グループワーク発表		
11	グループワーク	グループワーク発表		
12	グループワーク	グループワーク発表討議まとめ		
13	災害時体験演習 オリエンテーション	災害時生活体験の目的・目標・内容・実施方法・準備		
14	準備			
15	災害時生活体験演習 評価	まとめ		
	演習第1回 デイキャンプ(1日) 演習第2回 災害時体験(2泊3日)	入学後1ヶ月以内の土曜日 夏期休暇中		

教科書	「看護の基本となるもの」バージニアヘンダーソン(日本看護協会出版会)
参考書	「共育キャンプ高木学校(保助看護生のための体験学習実践記録)」「(ミリオン書房) 「関東大震災」吉村昭著(文春文庫) 阪神大震災に関する資料 奥尻島の津波に関する資料 名古屋地方にける大水害 中越地震に関する資料 上記に関する週刊誌 新聞等の切り抜き等

授業科目名	看護学概論	担当教員	鹿村眞理子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護の主要概念を学ぶことで、看護の独自性を学ぶ。また、社会の変化とともに発展してきた看護の歴史、看護理論、看護と法律、看護倫理等についての理解も深める。看護の役割についての明らかにすることがこの科目の目的である。
学習到達目標	1. 看護の主要概念である人間、環境、健康、看護について理解する。 2. 主な理論家の構築した看護理論を学び、看護の本質を考える。 3. 看護の歴史、看護と法律、看護倫理等を学び、社会における看護の役割を明確にする。
関連科目	関連する教養科目 心理学 生命倫理 家族学 医療民俗学 環境論 関連する専門基礎科目 発達心理学 看護学入門 健康管理論 この科目が基盤となる専門科目 専門科目のすべて
成績評価方法	課題に対するレポートと定期試験により評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護とは	看護師とはどんな職業か、看護職の果たす役割と法律について学ぶ。	必修問題 5. 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務、b) 看護師に禁止されている業務、c) 守秘義務 d) 業務従事者届 社会保障制度と生活者の健康目標 4 B. 保健師助産師看護師法 a) 目的・定義、b) 免許、 c) 業務、d) 守秘義務 B. 看護職員 a) 養成制度、b) 就業状況 目標 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質 a) 対象、b) 役割、c) 機能 C. 人間にとっての健康 a) 健康の捉え方、b) 健康に影響を与えるもの D. 生活と健康 a) 生活のリズムと健康のかかわり、b) 生活習慣と健康のかかわり、c) 生活の要素と健康のかかわり、d) QOL 必修問題 2. 健康と生活 A. 生活習慣 a) 食事・栄養、b) 睡眠、c) 運動、d) 飲酒、e) 喫煙	
2	健康とは	健康の概念と健康の成立条件および QOL について学ぶ。		
3	健康とは	自己の健康観を明らかにする		
4	対象としての人間	対象である人間の基本的ニーズや人間をとりまく環境等について学ぶ。	必修問題 1. 人間の特性 A. 人間と欲求 a) 基本的欲求、b) 社会的欲求 B. 患者の特性 a) QOL、b) 患者ニーズ、 c) 健康に対する意識、 d) 疾病に対する意識、 e) 疾病・傷害の受容過程 3. 患者と家族 a) 家族関係、b) 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響 目標 1 1. 看護の基本となる概念 B. 看護の対象としての人	
5				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
6 7 8 9	看護の歴史 看護理論 医療事故 看護の役割と機能	看護の誕生とその発展について学ぶ。 主な看護理論とその特徴について学ぶ。 医療事故について考える。 看護職の働く場と保健医療福祉の連携について学ぶ。	間 a)人間のとらえ方、b)人間と環境 必修問題 4.主な看護活動展開の場と看護の機能 A.医療施設 a)病院、b)診療所、c)助産所、d)老人保健施設 目標3 1.看護の役割と機能を支えるしくみ A.看護活動の場 a)地域における看護活動、b)医療施設における看護活動、c)保健福祉施設における看護活動 B.継続看護 a)施設内から在宅への継続、b)退院計画および退院指導、c)経時的に変化する継続看護 必修問題 4おもな看護活動展開の場と看護機能 D.関連職種との連携 a)関連する職種 b)チーム医療 c)看護の役割 目標3 c.保健医療福祉の連携 a)他職種の役割、b)他職種との連携 E.専門職能団体の活動 a)専門職能団体の役割と機能 F.看護行政 a)看護職員の確保、b)看護職員の資質の向上、c)看護実践の質の向上 必修問題 4.看護の倫理 A.基本的人権の擁護 a)個人の尊厳、b)患者の権利、c)自己決定権、d)インフォームドコンセント、e)ノーマライゼーション 目標 E.看護倫理 a)患者の権利擁護、b)患者のプライバシー保護、c)看護師の倫理規定、d)職業倫理 社会保障制度と生活者の健康目標4 C.看護職と関係法規 a)労働基準法、b)労働条件の原則、c)育児休業・介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>、d)看護師等の人材確保の促進に関する法律、e)医師法、f)薬剤師法、g)診療放射線技師法、h)臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律、i)理学療法士及び作業療法士法	
10	看護の役割と機能	専門職能団体の活動、看護行政について学ぶ。		
11	看護倫理	看護師の倫理規定、個人の尊厳、インフォームドコンセント、自己決定権などについて学ぶ。		
12 13	医療の中の死 看護と関係法規	脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死などについて学ぶ。 看護職に関する法規について学ぶ。		
14	看護について考える	今での学習や文献を通して自己の考えをまとめる。 試験		
15	試験			

教科書	「看護学概論」川村佐和子他（メデिका出版） 「患者取り違え事故はなぜ起きたか」吉田敏子（文芸社）
参考書	

授業科目名	看護ケア方法論	担当教員	鹿村眞理子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護ケアの本質、患者 看護者の援助的人間関係、看護ケアの基本を学ぶ。看護におけるケアとは何かを理解することがこの科目の目的である。
学習到達目標	4. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学ぶ。 5. 人間の健康に関わる生活行動について学ぶ。さらに、健康の保持増進するための看護ケアの方法を根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目 心理学 環境論 関連する専門基礎科目 生理学 発達心理学 この科目が基盤となる専門科目 専門科目のすべて
成績評価方法	課題に対するレポートと定期試験により評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護ケア方法論とは	ケアの本質、看護ケアにおける人間関係の必要性について学ぶ。	必修問題 1. 基本技術 A. コミュニケーション a) 言語的コミュニケーション、b) 非言語的コミュニケーション 目標2 1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション、c) グループワーク、グループダイナミクス 必修問題 3. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a) ベッド、b) 病室環境 目標2 2. 基本的な生活援助技術 A. 環境を整える技術 a) 環境の調整、b) 病床の整備 D. 身体の清潔の援助技術 a) 清潔行動のアセスメントと援助方法 C. 排泄の援助技術 a) 排泄行動のアセスメントと援助方法、b) 排泄物の観察、c) 自然な排泄を促す援助方法 必修問題 3. 日常生活援助技術 A. 食事 a) 食事の環境、b) 食事介助の方法、c) 誤嚥の予防 目標2 2. 基本的な生活援助技術 B. 食生活の援助技術 a) 健康な食生活、b) 栄養状態の評価、c) 摂食行動のアセスメントと援助方法、d) 病人の食事 必修問題 2. 常生活援助技術 D. 活動・休息 a) 睡眠 目標2	
2	コミュニケーション	効果的なコミュニケーションを成立させる理論と技術について学ぶ。		
3		相互作用		
4		とコミュニケーションについて学ぶ。 人間関係の疑似体験(ロールプレイング)を行う。		
5	環境	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と方法を学ぶ。		
6	清潔	清潔保持に関する生理的メカニズムを理解する。さらに、対象者の清潔に関するニーズについて学ぶ。		
7				
8	排泄	排泄に関するメカニズム、意義について学ぶ。		
9	栄養	栄養と食事に関する基礎知識とその意義について学ぶ。		
10	休息・睡眠	休息・睡眠の意義とそのメカニズムを理解し、必要に応じた休息・睡眠の取り方を学ぶ。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	活動・運動	活動・運動の意義を理解し、人間が健康生活を送るために必要な知識について学ぶ。	2. 基本的な生活援助技術 G. 休息・睡眠の援助技術 a) 休息睡眠状態のアセスメントと援助方法、b) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法、c) 睡眠障害とその援助方法	
12	リラクゼーション	精神的な安楽を促す方法のひとつであるリラクゼーションについて学ぶ。	F. 活動・運動の援助技術 a) 活動・運動のアセスメントと援助方法、f) レクリエーション	
13	カウンセリング	看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。	目標2 1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 b) カウンセリング技術	
14	看護ケア方法論のまとめ	今まで学習してきた看護ケアの方法について統合・整理する。		
15	試験			

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他（メディカ出版） 「看護データブック」神田清子他（医学書院）
参考書	

授業科目名	地域看護学概論	担当教員	梅 林 奎 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義・文献講読とレポート及びグループワーク
科目の目的	1 地域看護の歴史の変遷や実践例から地域看護の概念と役割について理解する。 2 地域の人々の健康を守る活動として公衆衛生看護の原理・原則について理解し、今後の活動について展望する。
学習到達目標	1 地域看護の歴史の変遷と地域看護の概念を理解する。 2 地域看護の理念、役割と機能・対象・活動の場を理解する。 3 包括医療体系のなかでの看護の包括性・継続性のある看護活動を理解する。 4 住民のニーズに合わせてダイナミックで、創造的な活動であることを理解する。 5 在宅看護の特質、対象と方法を理解する。 6 公衆衛生看護の理念、役割と機能を理解する。 7 公衆衛生看護の活動方法の特徴、成立条件を理解する。 8 公衆衛生看護の活動の場に応じた看護活動について理解する。 9 住民が自分たちの健康問題の解決に取り組む活動について理解する。 10 災害における保健師の活動と役割について理解する。 11 公衆衛生看護管理について理解する。
関連科目	教養科目群：人間生活成熟社会環境論 心理学 専門基礎科目群：公衆衛生学 疫学 保健福祉行政 専門科目群：基礎看護学 母性・小児看護学 成人・老年看護学 精神看護学
成績評価方法	テスト、但し出席状況をも考慮して総合的に判定する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域看護の発祥	・地域看護の歴史的歩み	全ての看護師国家試験の出題基準に準ずる	諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師(訪問看護師)の位置づけ 公衆衛生活動の理念・目的、健康に関する認識の普及・啓発、自立的な生活への支援・強化、健康を志向する町づくり 健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、パートナーシップ、ノーマライゼーション、アドボカシー、基本的人権の尊重・権利擁護、自立支援、自己決定、住民参加、男女共同社会、自治、制度・政策開発、リスクマネジメント、職業倫理 公衆衛生看護、継続看護、ヘルスケアチーム 地域における保健活動・在宅ケアの方向づけ、サービスの提供体制の整備、指導・監視、コミュニティの健康水準の向上への提言、職員と住民の権利保障 訪問看護制度と介護保険、高齢者保健の動向、高齢者の生活と保健指導、在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導、要支援・要介護高齢者、痴呆高齢者、ターミナルケア、在宅ケア・在宅看護の理念と目的、在宅ケア・在宅看護活動の実態、在宅ケア・在宅看護の制度とシステム、地域ケアシステムの構築、ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション、社会福祉の基本概念、地域福祉計画とコミュニティ、地域福祉権利擁護、成年後見制度、在宅ケアのためのマネジメント、対象者の疾病管
2				
3	地域看護の概念	・地域看護の定義 ・地域保健活動と公衆衛生活動 ・地域看護と公衆衛生看護・在宅ケア		
5				
6	包括医療体系と地域看護の理念と活動	・包括医療(総合保健医療)と看護の継続性 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション、アドボカシーと地域保健活動・公衆衛生活動と地域看護活動・公衆衛生看護活動		
8				
9	看護職者の職業倫理	・倫理綱領・患者の権利宣言・地方公務員法等		
10	地域看護の役割	・包括医療(総合保健医療)体系と役割 「自分たちで命を守った村」沢内村		
11	地域における看護活動の実際と役割	・在宅看護にかかわる現状 ・外来における継続看護 ・公的機関の訪問看護 ・訪問看護ステーション		
12		・開業看護職の活動		
13	地域看護と地域ケア体制	・保健医療チームと体制づくり ・看護職の役割		
14	介護保険の概要と看護職の役割	・介護保険制度の概要 ・介護保険制度にかかわる看護職の役割		
15	在宅ターミナルケア	・在宅ターミナルケアの現状と支援体制の実践例		
16	公衆衛生看護の歴史	・公衆衛生の歴史と公衆衛生看護の歴史		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17		公衆衛生看護活動の芽生え ・ ナイチンゲールと公衆衛生看護 (レポートと講義)		理・憎悪防止、介護者への支援、介護の人的資源確保・開発、介護の物的資源確保・開発、在宅ケアのサービス活用・法的根拠、在宅看護管理、訪問看護ステーション管理、地域ケアシステムづくり、在宅看護の質評価・管理、介護保険制度、法体系、市町村の役割、居宅サービス事業者、居宅介護支援事業者とケアマネジメント
18	公衆衛生看護の定義 公衆衛生看護活動の理念と目的	・ 公衆衛生の定義と公衆衛生看護の定義 ・ 公衆衛生と公衆衛生看護 ・ 公衆衛生看護の理念と目的		諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師(訪問看護師)の位置づけ、在宅ケア・在宅看護の変遷、社会背景健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション
19	公衆衛生看護活動の展開方法	・ 理念と目的、役割、展開の方法を実践例を通して(大西若菜氏の活動) (レポートとGW) ・ プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションと公衆衛生看護		国際連合とWHO世界保健機関の健康政策、国際協力とODA政府開発援助、国際機関、NGO、発展途上国
23	国際保健と国際協力	・ WHO(世界保健機構) ・ ODA(政府開発援助) ・ NGO(Non-government Organization)		個別・集団の接近技法(ケースワーク、グループワーク)の各目的、特性、個別・集団指導の種類・特色、個別・集団指導と援助者の基本姿勢、対象選定と優先順位
24	公衆衛生看護の役割と機能 公衆衛生看護の活動の特徴と成立条件	・ 実践例のまとめと公衆衛生看護の役割と機能 ・ 公衆衛生看護活動の特徴 ・ 公衆衛生看護の成立条件		個人・家族、小集団、組織・機関、コミュニティ
25	公衆衛生看護の法的基盤	・ 保健師助産師看護師法における保健師業務		地域診断、計画策定・評価、地区活動、個別・集団の接近技法・技術、コーディネーション、地域支援システム構築、地域資源開発
26	公衆衛生看護の対象 公衆衛生看護の場と実践	・ 個人・家族・集団・地域の特性と対応 ・ 行政機関(市町村・保健所) ・ 保健師活動指針 ・ 施策化 ・ 福祉関係機関 ・ 事業所 ・ 学校 ・ 多様な活動方法		災害の定義・分類、災害看護の目的、自然災害サイクルと災害医療・看護
27		・ 有機的な連携の必要性		災害に関する法体系、災害支援の制度とシステム、災害支援に関する社会資源
28	地域づくりを目指す活動の原理	・ 学習支援と組織化活動		避難のための支援必要者・実態把握、災害防止マニュアル、災害訓練、教育普及啓発(住民主体の防災対策への習慣づけ)、装備、救援・支援ネットワーク構築、初動体制、救護班・避難所での活動、トリアージ(定義・原則・プロトコル)、避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、PTSDへの対応、職員の心身の健康管理、ボランティアへの活動支援
29	公衆衛生看護と災害	・ 災害各期における公衆衛生看護の役割		関連情報の収集、情報ネットワークの構築、情報管理の方法、情報開示、マスコミ対策、個人情報保護、サービス提供組織の診断、地域における看護の継続性、総合性の推進、他職種・他機関との事例検討、地域の特性をいかした社会資源の開発と管理、組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、業務管理、他部門との連携、情報の共有、協働
30	公衆衛生看護管理	・ 管理の基本 ・ 人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 ・ 危機管理		人材育成方針の策定(組織内)、現任訓練、教育研修の計画と評価、保健事業と人材育成の予算編成、目的、効率・効果、代替案の明確化、主務者、財務部門、議会への説明

教科書	「最新保健学講座 地域看護学総論」金川克子編(メヂカルフレンド社) 「最新保健学講座 地域看護学総論」平野かよ子編(メヂカルフレンド社) 「最新保健学講座 地域看護活動論」金川克子編(メヂカルフレンド社)
参考書	「国民衛生の動向2004」(財団法人厚生統計協会) 「ナイチンゲール著作集1・2巻」薄井坦子他訳(現代社) 「公衆衛生看護学総論」平山朝子他著(日本看護協会出版会) 「いま改めて公衆衛生看護とは」嶋村幸代他訳(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習	担 当 教 員	須 藤 絹 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習
科 目 の 目 的	実習要綱参照
学 習 到 達 目 標	実習要綱参照
関 連 科 目	実習要綱参照
成 績 評 価 方 法	評価表に基づいて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

教 科 書	
参 考 書	